

明治四十四年

(二月)

一月一日 辛未 日曜 四方拝。晴。

朝五時起。天地の神を、両陛下をふし拝み、七時、食堂に参集。越年生徒等と共に椒酒、雑煮を祝ふ。畢て、裁縫教場に初日の出を拝み、一同、君か代を唱歌して、両陛下万歳をとなへ、玄関前にて一同撮影す。それより氷川神社に参詣して、天晴朗、風なく雲なく長閑なる空にて、最上の好天気、あたゝかくて帰校。来客、姉小路伯、橋岡氏、御題の謡初す。新田純興、長尾夫婦、橋本宗二郎、岡崎氏、安部、北村、みな酒肴を出す。本年八重組を拵へて都合よし。

あたらしきとしのはしめの御よろこひめてたくきこえあけ候かしこ

年賀状二百八出。

受信 端書、名刺共百六十軒、六(ママ)。

\*ふし(伏し)

一月二日 壬申 月曜 晴朗、風。

朝七時、生徒と共に食堂にて雑煮を祝ふ。九時より、予、桃子と手分して年礼廻りする。岩崎男、田村、佐々木政吉、戸田伯、大谷伯、三条公、折節、酒井伯嗣子始めて御出二付、午餐を共にしてとの仰ニ付御祝酒、一時頃退きて、橋本氏、中山栄子様、松尾男、中山侯、九条公を納めて帰。風はけしくて、其寒さいはん方なし。四時頃帰。来客、観世清久、谷村氏。朝九時出立、泰、寿子、銚子ニ、弘、小田原二行。

受信 来状、三百五枚。

\*いはん方なし(言わん方なし)

一月三日 癸酉 火曜 元始祭。晴。

本日ハ食堂にて、朝、雑煮を祝ふ。終日、宅にて礼を受る。来客、橋本太吉、梶山氏。午下四時半より上野精養軒に行。万里家一統の和慰会。此会也、昨年より始而、是第二回目也。酒井伯夫婦、堀田伯夫婦幹事、会者十七人、老若男女、互に親密を計る。第一老人を慰むと云、食事二付、挨拶、答礼もありて、食後別室に談話。君か代を唱ひ、各々かくし芸と云。一同椅子取をはしむ。殊の外面白く一同の喜び限りなし。是を嘉例とすと云。九時退散。

受信 〆四百廿二。

一月四日 甲戌 水曜 晴。

午下早々、姉小路、大炊家政氏、石山基陽氏を問ふ。謡初などして、五時より約の如く築地精養軒に行。加茂氏、少将二昇進せられたると、佐世保に転任の送別とを兼たる祝宴会にて、来客者、海軍中将山本氏を始め、又、万里家の一統にて、四十人計。食堂開かれ席につく。加茂氏挨拶、来客之答辞盛に、食事畢而別席にて扇二本に一同之揮毫あり。畢而、また椅子取はしまる。一同の悦ひ限りなし。九時、畢而帰。

一月五日 乙亥 木曜 雨。  
宅にて礼を受る。

一月六日 丙子 金曜 晴。  
午下より宮城に参る。藤袴権典侍御局にて、此時、姉小路延子御子たちふたり共御参りにて、藤袴さまと暫御咄して退る。

一月七日 丁丑 土曜 雨。  
朝、七草の御祝する。

一月八日 戊寅 日曜 晴。  
(コノ日、記事ナシ)

一月九日 己卯 月曜 晴。  
始業式執行。庭の運動場に紅白幕帳つめ、式場台を置き、椅子を並へ、午下一時半、教員、生徒一同出席。第一、校長新年之辞をのへ、君か代、校歌、其外、三、四、五年之唱歌にて式全畢。福引景物を式台二つみ上て、四方青竹にて結び、廿人ツ、唱歌うたひつゝ廻る。折しもヲルガン止む時、各目かくしなから景物を自分(で)とる。一番済て、また廿人ツ、と云。時間のかゝらん事妙也。四時、茶菓ちよの友一箱つゝ、退散。

\*帳つめ(張め) \*かくし(隠し) \*ちよ(千代)

一月十日 庚辰 火曜 雪、又あられふる。

授業始をなす。来客、門野玉子、石山基陽、島田玉。

\*あられ(霰)

一月十一日 辛巳 水曜 午下一時、九段偕行社、愛国婦人会新年会。

早朝、堀田伯薨去の知らせに大驚愕。李子、早々佐倉へ行、一泊。午下一時より九段偕行社にて愛国婦人会新年会ニ出席す。会長始、互礼をなし、余興、白鶴の講演、義士直介之伝、小児の剣舞、畢而食堂にて福引。四時済て帰。

\*白鶴の講演(伯鶴の講演)

一月十二日 壬午 木曜 雨。終日の強雨、雷鳴。

李子、午過、佐倉より帰。明日、謡初に付、景物之趣工。烏帽子折、難波、芦刈之三題。内にハ吉次兄弟ならては有ましきか、さて何者かある。芸者の写真五枚

あゝ切たりく、きやつは曲者よ。曲物に切ぼし

只一打に打落したるよし申候。雉子一羽

これなる所えかくれて候。ガラ／＼三箇

今を春へとさくやこの花。大坂のこの花せんへい

先々景物出来たり。

\*趣工(趣向) \*芦刈(蘆刈) \*せんへい(煎餅)

一月十三日 癸未 金曜 陰。午下早々、霞ヶ関大谷伯謡初。

稽古日、角田氏、河村氏。午下一時より大谷伯え参る。御謡初、もはや高砂打済たり。徳川公、細川侯、岡部子、前田子はじめ三十人計、五派の方々也。謡八番、畢而、各仕舞、或ハつゝみ等にて、食事中、福引賑々敷。難波、芦刈、烏帽子折の三題中より撰み出して、尤当を得たるハ、

大谷伯 よせかけて 算磬

花蹊 只一打に打落したりと申候 雉子一羽

是は国民新聞ニ出たる也。夜十一時帰。

\*芦刈(蘆刈) \*算磬(算盤)

一月十四日 甲申 土曜 晴。

午下、清水氏を問ふ。初子、病もかく別の事もなくて大ぬに安心。挙家ニ逢て帰。新田ニ寄、暫時にして帰。

一月十五日 乙酉 日曜 雪。

朝より佐倉行。予、正子と出門して、本所停車場迄行。密雪紛々として、とても佐倉迄ハおほつかなくて、本所より引返す。正子のみ行。夜ニ入て帰。

一月十六日 丙戌 月曜

午早々、婦人界より写真師来る。撮影する。桃子、佐倉へ行、一宿。寄宿舎地慎祭執行。梶山来る。来客、大炊晨子。

\*婦人界(婦人世界) \*地慎祭(地慎祭)

一月十七日 丁亥 火曜 晴。

堀田伯葬儀。桃子、夜帰。

発信 大坂唯専寺、美尾野、岡山津田、みの遠藤、御寺御所、島津岩城え、小包物出す。  
\*みの遠藤(美濃遠藤)

一月十八日 戊子 水曜 晴。

来客、江木秀子。正子、朝より長尾え行。長松子母章子死去二付、弔詞及香料三円備る使出す。安井月海師、今回、総本山円福寺法主昇進致され候二付、来ル廿一日告別式執行。当校泉会二付断ル。

\*備る(供る)

一月十九日 己丑 木曜 曇、夜に入て雨。

来客、石山すま子、岡崎忠子。謡初、百万、錦木、鉢木。酒肴出して、九時帰らる。

一月二十日 庚寅 金曜 雪。

昨夜よりの雪、終日ふりつゝきたり。明日の準備にいそかし。稽古日、黒沢綾子、河村晴子。

\*いそかし(忙し)

一月二十一日 辛卯 土曜 晴。

泉会発会二付休業。朝より、裁縫(場)を式場とし、習字場、食堂とし、よく準備齊ひたり。午後早々、道路のあしきもいとほす、続々来会者にて、一時半、会長祝辞、畢而余興、落語、田村氏薩摩ピロ三段、又落語。畢而五年生の活人画、現代名婦人内閣見立、大妙々。福引にかゝる。畢而、會堂開く。始、おとそ、かちくり、昆布、するめ、二重折詰、梅之月、つくはねの菓子、取肴、うま煮、小箱漬物。会員百三十名。七時全畢。

\*あしき(悪しき) \*ピロ(琵琶) \*會堂(食堂) \*おとそ(お屠蘇) \*かちくり(搗栗) \*つくはね(突羽根)

一月二十二日 壬辰 日曜 晴。

来客、加茂正房、高倉寿子使。

発信 伊藤ふき、吉田福、関屋、島田信、松平鞆、別府、黒岩茂え、はかき出す。清水え一周忌香料、金三円。

\*はかき(端書)

一月二十三日 癸巳 月曜 晴。

正子、石山、本郷劇に行。

一月二十四日 甲午 火曜 晴。

業畢而より、予、正子と同じく眼鏡もとめ二行。宮内え、筆をもとめて帰。

一月二十五日 乙未 水曜 晴。

来客、京都市立高等女学校長清水儀六氏参観せらる。暫時面語する。雨宮氏葬式二付、工藤代理する。来客、佐々木芳子、美濃部姑子。

一月二十六日 丙申 木曜 晴。

大口氏。来客、古屋朝子、萩球子母恒子、長尾数子。

一月二十七日 丁酉 金曜 晴。

別科稽古日、角田、志賀、河村。大谷光瑞師御裏方籌子の君には、愈廿六日午後七時廿七分、御逝去あらせられたるよし、実に、なげきてもなげき尽されぬ事也。夢の心地いたし候。

受信 日下田富子より。

発信 日下田富子え返信。

\*なげき(嘆き) \*なげき(嘆き)

一月二十八日 戊戌 土曜 朝より雨、又ハ雪、又雨となる。

朝、倫理聞く。正子、早苗、午下より代々木石山え行、一泊。

発信 大谷籌子様御逝去に付、野間いく子え弔詞出す。河合光子え見舞出す。

一月二十九日 己亥 日曜 晴。

朝、弘、学修院より帰宅。直に小田原二行。朝より揮毫す。来客、棚橋絢子。

\*学修院(学習院)

一月三十日 庚子 月曜 孝明天皇祭。晴。

朝、殊の外晴朗。暖気。九時、出門。本所停車場え行。岩浪稻子、志賀鉄千代、約の如、来られ、十時廿五分汽車にて、佐倉堀田伯え慰問。校友会総代。一時半比着。午餐に逢ひて、本日廿日祭御執行にて玉串を捧る。畢而、墓前参拝して、四時何分の汽車にて帰。本所にて別れる。

一月三十一日 辛丑 火曜 雨。

来客、佐々木音次郎、画を願ニ来る。

(二月)

二月一日 壬寅 水曜 晴。  
洪木直一氏、画幅、及書画帖。中曾根氏、墨竹図渡す。来客、角田氏紹介佐野虎太妻静子、其妹入門願ニ来る。  
受信 関一郎氏より鴨三羽着。

二月二日 癸卯 木曜 晴。  
画の試験手本出す。午下、予、正子と同しく、三越、松屋え買物に入て帰。

二月三日 甲辰 金曜 晴。 午後五時より帝国ホテル行。三井男爵、村井吉兵衛夫妻、歓迎。

別科稽古日、六人来る。来客、渡辺玉子。午下五時より帝国ホテルに行。会長鍋島夫人を始め、三井男爵夫婦、令嬢、村井吉兵衛夫妻、嬢、凡四十人位。七時、食堂開け、晚餐之時、写真撮影、畢而、休憩所にて三井男の漫遊感想談あり。畢而、村井氏世界一週の談話面白く聴たり。九時頃済て帰。

\*一週(一周)

二月四日 乙巳 土曜 節分。晴。  
泰、寿子、早苗、小田原二行。

二月五日 丙午 日曜 晴。  
予、正子と同しく、観世会二行。終日楽しく、六時済て帰。此夕、泰共三人、小田原より帰。

受信 神代鶴子より。

二月六日 丁未 月曜 晴。  
受信 神津より、ばた着。

\*ばた(バター)

二月七日 戊申 火曜 晴。  
来客、諏訪夫人、石山基陽。

二月八日 己酉 水曜 晴。  
来客、重威、房州より。

二月九日 庚戌 木曜 晴。

李子、佐倉え行、一泊。来客、重たけ。  
受信 比々野雷電より絹地着。

\*重たけ(重威) \*比々野雷電(日比野雷風)

二月十日 辛亥 金曜 晴。  
校外稽古日、六人来る。

二月十一日 壬子 土曜 紀元節。晴。

正子、靖子、小田原え行、一泊。終日、揮毫ものす。本日、桂聡理大臣を御前に召され、左の勅語を下し、併て施薬救療の資として金百五十万円を賜る旨、御沙汰ありたり。実に威泣限りなく候。

\*聡理大臣(総理大臣) \*左(ママ) \*威泣(感泣)

二月十二日 癸丑 日曜 晴。

午下早々、橋場三条信受院様え参り、種々御談話にて、三時過去る。小松宮様え伺ひ候処、頼君様御脳にて御晨中、老女二逢て帰。来客、大和田竜女、石山すま子、正子、靖子、七時帰。

受信 日々の雷風より絹地来る。

\*御脳(御惱) \*御晨中(御寝中) \*日々の雷風(日比野雷風)

二月十三日 甲寅 月曜 陰。夜、雨ふる。  
暖気甚し。

二月十四日 乙卯 火曜 晴。61(度)。

来客、重たけ。朝、雨ふる。已而晴。

訃音、木田万右衛門死去、十二日。

\*重たけ(重威)

二月十五日 丙辰 水曜 晴。

午下三時より原町酒井伯を問ふ。過日十一日、温室にて中気発病にて、一同驚かれたれど、極かるきよし。本日は御指少し感せられたるよし也。頭様、菊様に御目にかゝりて帰。帰途、佐野男を問ふ。御隠居、きせ子、大々悦れ、暫時はなして帰。来客、重威、明日帰房のよし也。

\*頭様(秋様)

二月十六日 丁巳 木曜 晴。

(コノ日、記事ナシ)

二月十七日 戊午 金曜 晴。 本日午後一時より村井宇乃。

校外稽古日、六人來らる。午下より村井吉兵衛氏二行。世界一週之節、到る処にて、歐画額面より、陶器、機械物人形、彫刻、幾百点と云を求められたるを陳列したり。珍らしく大ゐに有益のもの也。觀畢而歸。閑院宮に詣し、両殿下拝謁す。時、久々にて、西川ケイテイ嬢、ケンに逢、悦甚し。後、御息所御案内にて、御親築御出来二付、拝見す。実に善美尽されたり。四時後退る。

発信 京都近万え弔詞、香料五円出す。

\*世界一週(世界一周) \*御親築(御新築)

二月十八日 己未 土曜 晴。 三条実美公二十年祭。午前十時、墓前祭。午後一時、本邸祭典。

朝、倫理畢る。九時半より護国寺ニ参詣す。十時、御墓前祭典、玉串さゝける。陛下より御下賜なる御灯籠、御紋章金色さん爛として、実に御見事也。参拝者も多く御盛也。當時の事共追悼して、たゞ涙のみ。十一時半、全畢、帰宅。午下一時、本邸に参り、参拝す。御息所様と御陪食仰付られ、四時過退る。

\*さん爛(燦爛)

二月十九日 庚申 日曜 晴。

愛四郎祥当二付、予、李子と墓参して歸。仁科駒女來る。御供養の御すもしにて一同団欒。來客、市原常子。

\*団欒(團欒)

二月二十日 辛酉 月曜 晴。

來客、権僧正松森靈運師。面会、法華經書写に付て、感想の御咄しを希望致され、三月第一日曜、大乘寺にての講演をと云、切なり。再三再四断れとも、中々承知いたさず、困つたり。

\*いたさず(いたさず)

二月二十一日 壬戌 火曜 晴。

來客、午下二時頃、突然、跡見法專來る。寺格之義二付、願ニ來る。種々談合する。一泊。  
\*寺格之義(寺格之儀)

二月二十二日 癸亥 水曜 晴。 本願寺別院ニ於テ、婦人会相談、午下一時より。課業畢る。十二時半より別院二行。跡見法專よりの懇願二付、大草氏ニ面談して、国巡讚

を願候処、急度成功ハさせると云。右二付、御冥加金の数分らぬ故、それハよく聞合せて返答すると云事にて、先安心。婦人会ニ付、此度、拡張之協義、種々談合する。予ハ早く帰る。法専も待居たり。右の次第申聞候処、実に感涙ニむせひたり。七時十五分の汽車にて帰坂。

\*協義(協議)

二月二十三日 甲子 木曜 晴。

課業畢る。午下四時、寄宿舎上棟式執行す。来客、婦人世界記者富岡直方。

受信、大坂吉井藤一郎より魚味噌漬着。

発信 津田弘伸、神代鶴子え。

二月二十四日 乙丑 金曜 晴。午下、雨ふる。

校外稽古日。

二月二十五日 丙寅 土曜 午下一時より芝青松寺ニ於テ堀田正倫伯仏事執行。

倫理済て、午下早々、芝青松寺に参詣。堀田正倫伯の仏事執行。参詣人も多く盛也。四時、済て帰。

受信 吉井藤一郎、渡辺重石丸。

二月二十六日 丁卯 日曜 晴。

朝九時より樗会執行。大口先生来られる。四年乙生のみ、朝はしめて鶯の声を聞たるにて、朝鶯の題にて一同哥よむ。西方勝にて、先生の短冊、校長のも戴かす。午後二時済。

受信 神代より。日下久悦、藤田いよ。

(二月二十七日、記載ナシ)

二月二十八日 己巳 火曜 曇。 海事協会新年会。

課業畢る。二時より海事協会ニ行。余興、貞水の講演二席。食事ありて、福引済て帰。来客、姉小路公正、遠州跡見暉一。

(三月)

三月一日 庚午 水曜 晴。昨夜の雨甚し。 堀田伯五十日祭。

朝五時起。雨こしらへして七時出門。本所八時三十分汽車にて佐倉行。万里伯と同道。裏松千代子も、松平武脩夫人、松平鞆子、高木せん子、外、供の衆と大せいにて、汽車中も

咄しの中に佐倉着。車にて御墓に参拝して、堀田家に行。園中の梅花、先盛りにて、梅の御茶屋にて茶を喫し、御畑所々散歩して、一同午餐に付く。二時、祭典済て、三時五十分より一同仕度して、四時十五分汽車にて帰。来客、橋岡、基陽。受信、岡山津田鏝より。

\*こしらへ(拵へ) \*大せい(大勢)

三月二日 辛未 木曜 晴。

昨夜の雨甚し。今朝より散歩はしめる。

三月三日 壬申 金曜 晴。

校外稽古日、五人。来客、重たけ、はつ子。婦人世界富岡直方。

発信 大坂吉井え。

\*重たけ(重威)

三月四日 癸酉 土曜 晴。

朝九時より五年生絹地揮毫もの見る。午下四時迄。

三月五日 甲戌 日曜

終日、揮毫ものす。

(三月六日、記載ナシ)

三月七日 丙子 火曜 晴。

朝九時より、文部省視学官服部教一、外に東京府視学官三人来る。教授不残観て、午下二時迄居られて、見分済て種々咄しあり。四時頃帰らる。

発信 金沢栄義正、群馬和田さわ、長岡愛、伊藤たね。

三月八日 丁丑 水曜 晴。 姉小路寿邦院殿廿七回忌。

昨夜よりの雨、暫時にして晴る。朝九時半より光円寺に参詣する。読経ありて後、焼香する。参詣人ハ、万里通房様 御寺のみ、良子様御代理、姉小路延子、花蹊、李子、玉枝、重威のみ。御法事済て姉小路へ行、御昼餐、御弁当御茶碗といふのみ。来客ハ予、李子、玉枝と重威のみ。淋しき御法事、実に何共なさげなし。二時後帰る。委員会、本年之発会、四時より。島田、角田、星の、増田、橋本、宮原、今津、原氏不参。今後の協義ありて九時済。

\*星の(星野) \*協義(協議)

三月九日 戊寅 木曜 晴。  
昨夜よりの雨はれたり。来客、閑院宮御家令松井氏、国富吉信妻、及時江。田無小学校長  
参観す。

三月十日 己卯 金曜 陰。  
早起。牛天神之梅花をみて帰。校外稽古日。  
受信 大草氏より。

三月十一日 庚辰 土曜 雪。  
朝より雪ふり出したり。午下一時より泉会。此天気にもかゝはらぬ大せい集会。中島先生  
の障子の内の題にて、英人エトリン・アタム婦人の日本観の講演ありて、四時畢。此時よ  
り雪はれたり。

\*大せい(大勢)

三月十二日 辛巳 日曜 晴。  
午下一時より約の如く大乘寺え参詣する。権僧正師、大ゐに悦はれ、本日ハ板倉止子婦人  
の三十五日法要ありて、午下二時頃より予の法華経書写の感想にて一席講話する。五時帰。  
法華経の文字ハ六万九千三百八十字也。

三月十三日 壬午 月曜 晴。  
来客、千田勇子、石井初子 娘の入学願来る、青森県人長谷川四郎次 日蓮上人真筆の法華経竪  
四寸の巻物持参して、拝見する。実に不可思議、非凡の筆也。大乘寺より村雲婦人会員、昨日の  
御礼に来られ、大橋中将の絵巻物持参、拝見す。

三月十四日 癸未 火曜 雨。  
朝、散歩して帰。来客、幸島菊子、久々にて対面す。

三月十五日 甲申 水曜  
朝、散歩して帰。小川尚子、手紙持参して、武今日子長女長子入学願来る。

三月十六日 乙酉 木曜 晴。  
朝、散歩して、津田を訪ふて帰。過日より約ありて、午下二時より秋元子邸に行。子爵様  
に御対面して、種々の談話ありて、雪舟の名画拝見す。已而帰。田村氏を問ふ。嫁の荷物  
着の時にて、困雑中、暫時咄して帰。

\*困雑(混雑)

三月十七日 丙戌 金曜 午下雨。 委員会、午下四時より。  
校外稽古日、角田、小早川、長谷川、佐野、志賀、川村也。午下四時より、安田善三郎、  
島田氏、橋本、角田、原氏集会。種々協議有て、八時済て散会す。

三月十八日 丁亥 土曜 朝十一時三十分上野御発車、閑院宮総裁殿下。浅草婦人会、  
午下一時より。

来客、山内八重子さま。田村謹寿結婚ニ付、白羽二重一反箱入、鶏卵大箱祝ふ。閑院宮両  
殿下、茨城県下御台臨ニ付、上野停車場にて御見立申上る。浅草本願寺へ行て帰。

三月十九日 戊子 日曜

終日揮毫ものす。

三月二十日 己丑 月曜 朝九時、本願寺輪番え。

朝九時、本願寺にて御法主ニ拝謁して、唯専寺寺格の事を願ふ。  
発信 唯専寺え。神代え。

三月二十一日 庚寅 火曜 大森中田氏行。

早起。朝八時四十分発の汽車にて大森中田氏へ行。予と富子と同道。十時、大谷御法主成  
らせられる。南条博士、大草桑門、外、京都よりの僧と也。中田氏の家屋新築奇麗にて、  
園中眺望、殊二佳。不二山真白にて、好天気にて殊二妙也。とりあへず、すけつちする。

御法主には何か揮毫をすると仰せられ、書画の合作をと申たれと、此宿には絹地、筆の用  
意もなく、御持参なる色紙ニ誹徊を遊はされて、予も一枚戴く。

六百五十梅さくに遇へり祖忌の春 句仏

昼餐済て、三時頃還御、御別邸え成らせられる。予も四時より大谷御別邸を訪問して、  
久々御裏方様あや子様と暫時御はなし申上て、五時十六分の汽車にて帰。新橋迄、富子と  
其父とに送られたり。六時夜行、御法主御見立申上て帰。

\*誹徊(俳諧) \*すけつち(スケツチ) \*さくに(咲くに)

三月二十二日 辛卯 水曜 春季皇霊祭。陰、雨。

朝早く墓参して帰。春季皇霊祭ニ付、祖先祭執行す。来客、山内豊尹子家扶広世。卒業証  
書揮毫す。庭中桜花始而開。例年より八十五日間早し。

三月二十三日 壬辰 木曜 雨。 五年生謝恩会出席。

朝より中島徳蔵先生を訪ふ。在宅にて、当学校学務顧問を委、承諾せられたり。それより  
箕作源八君を訪ふ。御不在にて、夫人に面会して、学務顧問を承諾せられたり。午下一時  
より謝恩会ニ出席。五年生の余興、中々面白くよく出来たり。点灯頃済。

受信 跡見法専より廿二日出、本日午後着。  
発信 跡見法専え返書す。

三月二十四日 癸巳 金曜 雨。已而晴、又陰。  
校外稽古日、角田、佐野、志賀、山尾、長谷川、河村也。来客、土井早苗、田中貞子其娘と、千田勇子、郷浅江、河野幾志。

三月二十五日 甲午 土曜 晴。 海事協会より、午下一時、麴町区有楽町東京商業会議所ニ於テ総会、出席。  
来客、婦人世界記者。午下一時より商業会議所ニ行。海事協会第十一回定式総会。総裁殿下の令旨を賜フ。理事長奉答。評議員之選挙、畢而帰。  
受信 神代鶴子より返書。

三月二十六日 乙未 日曜 雨。四時頃より晴わたる。 午下二時半より帝国ホテルニ於テ披露会、田村利七、橋本喜助。  
午下二時より、予、李子と同じく帝国ホテルニ行。田村氏、橋本氏結婚披露会。余興も数番面白く、五時食堂開けて食事。済、散会す。

三月二十七日 丙申 月曜 晴、夜雨。

天晴朗、先悦ふ。運動場式場裝飾、奇麗出来たり。惣柱、紅白切にて巻付る。天ト一フ帳つめる。此度学務顧問に願ひたる箕作源八先生、中島先生、角田氏、橋本氏、来賓。二時、生徒一同着席。生徒一同校歌。卒業証書授与、進級証書、優等賞、勉学賞。済て、校長訓辞、来賓講和角田氏、田中勝子答辞、新田千歳送別、馬場答等ありて、式全畢。庭中にて、卒業生、季子殿下六年御卒業、外ニ四人共撮影す。職員及卒業生、食堂にて御すもしを出す。外、生徒一同え菓子出す。五年生遅刻之怠アリ。

\*天ト一(テント) \*帳つめる(張りつめる) \*講和(講話) \*馬場答(ババ辞)

三月二十八日 丁酉 火曜 晴。

午下早々、田中敬介、貞子、勝子、李子、御礼に来られる。四時より、予、石山氏と、福田会慈善演奏名人会、有楽座ニ行。義太夫呂昇ニ感服々々。十一時帰。李子、熊谷え行、夜帰。弘、神戸ニ行、夜六時汽車。此朝、山内氏に行、種々打合せする。昼帰。

三月二十九日 戊戌 水曜 晴。

来客、佐野新子。午下一時より高輪毛利様を訪ふ。御後室ニ面会して、当校の名誉顧問を願ふ。種々の御咄し等ありて、御合の物、御酒肴戴て、六時帰。

三月三十日 己亥 木曜 晴。

(コノ日、記事ナシ)

三月三十一日 庚子 金曜 秋元子、山内子、来臨、午下三時。

午下二時、山内八重子様御出にて、李子、おぐし等上げ直したり。三時、秋元子爵御出にて、種々御咄し等も有て、八重子様と会見もありて、御合のもの出す。四時、いつも御歸りに相成たり。両方様とも御よろしき様子也。

(四月)

四月一日 辛丑 土曜 晴。

朝八時、秋元子使太田氏来られ、愈山内八重子様と御婚儀相談申込れたり。早速、山内え知らせたるに、一同御他出にて、今夕、八重子様え直ニ申入れたり。五年生、式にもれたる十三人の卒業授与式執行す。午前十時済。

四月二日 壬寅 日曜 晴。

朝五時半より、予、李子二民をつれて、電車にて上野に花をみる。本日を以て第一とす。咲も残らず、ちりも初めすと云。動物園あたり殊に妙。又、電車にて雷門迄、それより蒸汽船にて、向島小松島に着。散歩して花をみる。先一、二分の咲也。ホート会などにて雑沓夥し。朝食前にて皆大々腹空なりとて、白鬚神社下に入金と云に朝食す。此時のコツケイ無究なし(衍)。食事済て、言問より又船にて東橋ニ着。電車にて帰。教員会議、宮内氏、須川氏、大塚氏、野呂山氏。教員始て来る、迎、上野、城、門馬、黒沢・・・(記述ナシ)。

弘、午下二時、神戸より帰着。

\*ちり(散り) \*ホート(ボート) \*コツケイ(滑稽) \*究なし(極なし) \*東橋(吾妻橋)

四月三日 癸卯 月曜 雨。

日本橋開通式、盛、前代未聞と云。

四月四日 甲辰 火曜 晴。

来客、飯島良助氏、其娘富美、中島氏細君、姪山口敦、加藤浪子、其母恭子。

四月五日 乙巳 水曜 晴。

朝より、予、正子と同しく三越二行、買物して、子供博覧会をみる。先年よりハよほと準備よく出来たり。はい原え寄、買物して帰。来客、依田尚子、別府徳、早川八寿、伊藤真広、花井静、加藤喜美、小柳繫舟、日下雪ノ父。

\*はい原(榛原)

四月六日 丙午 木曜 晴。

授業式。新入生及父母兄共、大多数にて実に盛也。昼迄にて済。来客、大坂玉泉寺宗謙、其旦那岩崎利助妻、其嫁、其娘。午下一時より北白川宮え詣し、富子殿下、武子殿下に拝謁。此度、保科家え御降嫁に付、御祝物献上す。退て東伏見宮え詣し、御餞別もの献上す。三条家え参り資君様と閑談。夕景帰。

受信 神代鶴子より。

発信 神代鶴子え返書。跡見法専え返書。

\*旦那(檀家)

四月七日 丁未 金曜 晴。

朝八時前より授業を見廻りたり。来客、石山すま子。予、正子と同道、墓参して、植物園の花をみる。少しちりかゝりたるさま、殊更によし。庭園中散歩しつゝ、花を賞して帰。来客、宮原常三郎、銅像之事二付相談する。

\*ちり(散り)

四月八日 戊申 土曜 晴。

倫理聞く。昼迄、教場見廻る。来客、山内豊尹子使広瀬来られ、秋元子との御縁談に付、親戚、其他一同大悦にて、大ゐに讃成のよし也。

\*讃成(賛成)

四月九日 己酉 日曜 風。 婦人世界園遊会、午下一時より紅葉館にて。

朝雨、已而晴。予、秋元子え行、子爵様に面会して、山内家より親戚其他一同承諾之義申入ル。子爵様御悦にて、いつれ表向使者を向らるへくの約束也。午下早々、予、李子と同しく、又、正子、靖、早苗、石山氏と同しく紅葉館二行。増田氏、婦人世界の五週年之悦なれハ、来賓之多き、座敷、庭園、立錫之地もなき盛大也。余興種々、女天下 喜劇もありて、増田氏開会の辞、仁戸部演舌、大隈伯同、予祝辞、棚橋祝辞にて式畢。食堂開け、已而帰。

朝十一時より吉原大火、夜七時迄。吉原全焼の号外出る。七千戸焼失。

受信 木津唯専寺より。

\*義(儀) \*五週年(五周年) \*仁戸部(新渡戸)

四月十日 庚戌 月曜 晴。75(度)。朝雨、已而晴。むしあつく始而七十五度に至る。始て袷衣着る。

八時より課業。閑院宮御殿にて三姫宮御教授始二付、李子附添、迎照子と参殿す。発信 原礼子、三条様、小松宮様へ電話にて御見舞申上る。

\*あつく(暑く)

四月十一日 辛亥 火曜 晴。

昨夜より雨風強く、朝になりて雨止たり。本日、閑院宮三殿下、御稽古に成らせらる。

四月十二日 壬子 水曜 晴。 東伏見宮御夫婦様、御渡英御出発。閑院宮御夫婦、香川

県より還御、夜八時廿分。

宮原氏来り、ネン土にかゝる。来客、鶴原英文妻、御礼ニ来る。

\*ネン土(粘土) \*鶴原(鶴岡)

四月十三日 癸丑 木曜 晴。

本日、庭中に床、及橋かゝり出来たり。来客、山内八重子。弘、風邪にて帰宅。正子、泰、石山と買ものに行。重威来る。松浦伯え御祝ものす。

四月十四日 甲寅 金曜 晴。 故鳥尾小弥太君七回忌。

校外稽古日。午下、三殿下成らせられる。鳥尾子え御備ものす。来客、重たけ、夜、志賀重昂。

\*備もの(供もの) \*重たけ(重威)

四月十五日 乙卯 土曜 松浦伯婚義披露会、午後二時より。

朝、倫理畢る。午下一時より松浦邸園遊会ニ会す。此時より雨降り出して、先、主人厚御夫婦、新御夫婦之御挨拶にて、御庭中も結構ながら雨中をの消遙にて、漸茶亭に飛入、一服戴て、余興場に入りて面白く、先々御庭の景色の雨中殊さらなり。来賓の多き、夫人、令嬢のふり袖姿も雨の中にていとぬれたるハ、いと御気の毒ニ存候。四時、食堂開け食事に付く。予ハコート姿にて笠もちたれハ、さのみ困雑(難)もなく、無事五時に帰宅す。外の方々は車にコートを入れて、車迄の間、草履に傘なしにて、其難義云へからす。

明日の室内の飾付、すへて出来る。雨にて桜花を持ち来らす。

\*婚義(婚儀) \*雨中をの消遙(雨中をの(ママ)逍遙) \*笠(傘) \*難義(難儀)

四月十六日 丙辰 日曜 晴。 誕辰之祝賀を催す。

昨夜より夜通し降つゝきて、朝に至りて七時頃より雲晴、好天氣ニ相成。先、玄關に大木の桜花を拵へ、紅白提灯をつるし、余興場、橋かゝりも紅白の布にて巻付、各国のはた、其外美しき飾ものにて、まはゆきほど也。十三歳を上をして男女の小児のみ、案内の通り三十九人、其付添人にて七十人程にて、午下二時には皆揃ひたり。横浜原氏より五人。余興、手しな、及茶番、或ハ重箱の上にて十二本の扇子をつかひ、松尽しを舞ひ、又、カツホレ、あやつりの獅子舞等、大掲采。其間に食堂、折すし、菓子、みかん、サイダ。食堂も小児の奇麗さ、子供博覧会也。一同庭にて写真撮影する。それより福引はしまる。式場に景物を飾る。五色の箱の中に景物を入れて、くじに当りたるもの、橋かゝりより取に行ぐ事、小児の悦一方ならず。福引畢て、又食堂にて御雑煮を出す。退散。皆、桜の枝に籠入りの菓子をふらさけて帰ると云。電車の人、車の人、花電車の如しと云。夜に入て琵琶人を呼び、塾生一同え聞かす。茶菓を出す。九時過、めて度誕生祝ひ済む。此時より又雨。\*まはゆき(目映き) \*上をして(上として) \*大掲采(大喝采) \*手しな(手品) \*カツホレ(カツポレ) \*あやつり(操) \*ふらさけて(ふら下げて) \*めて度(目出度)

四月十七日 丁巳 月曜 雨。

課業如例。来客、朝八時、秋元使太田氏来る。愈、山内家えの使者、十九、廿一日の両日のうち、問合せを頼まれたり。直に、山内え申伝えたるに、廿一日と極まる。夜、清水連郎来る。

四月十八日 戊午 火曜 晴、風。 午下一時より閑院宮参殿。

朝、倫理。三殿下、御稽古申上る。午下一時より閑院宮邸ニ参る。地方県知事、及愛国婦人会副会長、理事、幹事、評議員等召され、御茶話会在らせられ、総裁殿下、論詞朗読在らせられて、食堂にて御培食。御庭拝見して退参。跡にて御相談あり、後れて帰。帰途、石山え寄、夕景帰宅。

\*培食(陪食) \*退参(退散)

四月十九日 己未 水曜 晴。

課業畢る。又、午下二時より倫理。来客、重たけ、津田栄子、子供二人、基安、公正伯。受信 鶴子より書至。

\*重たけ(重威)

四月二十日 庚申 木曜 晴。

大風。堀田伯百ヶ日二付、李子、佐倉二行。

四月二十一日 辛酉 金曜 晴。 午下四時半、閑院宮邸え女教員引連参る事。

校外稽古日、角田、佐野、志賀、小早川、山尾、長谷川、河村。午下、三女王殿下。

四月二十二日 壬戌 土曜 晴。 午下二時、中山侯行。

朝、倫理済で、午下一時より中山侯二行。高丸様御催し、素謡。栄子 桜川、花蹊 小原御幸、高丸侯 俊寛、小藤 三井寺等也。夕食、御鄭重なる御料理にて、八時半帰る。来客、田中久子、縁談齋ひて近日輿入のよし、御暇乞に来る。

発信 三宅竜子え。

\*高丸(孝麿) \*小原御幸(大原御幸) \*高丸(孝麿)

四月二十三日 癸亥 日曜 晴。

朝十時過より車にて日比谷の躑躅みる。五分通也。三井俱樂部に行。素謡会十六番。三井元之介、守之介、主人側にて、毛利五郎男夫人、稲葉子、広沢、清岡子、其外、男女三十人計。予ハ六時帰。

四月二十四日 甲子 月曜 晴朗。

館林遠足会。朝六時、塾生出門す。予ハ車にて浅草停車所に行。三百九十五人、其外、職員、世話人等、八時十分発車。天あつらへ通り晴朗、風なくして心地よし。館林二着、十時十分、二時間也。停車場に阿部政五郎氏はしめ、新井氏の兄弟共出向れたり。躑躅花山迄、廿丁と云。みな徒歩して行。つゝじハ過たる位也。茶や三ヶ所にて休憩所とす。小高き処、山と云にてもなく、老松二、三本、見事なる。其外ハみなつゝしにて、年老たる、三百年と云もあり。実につゝし山也。元ハ外堀と云たるぬまありて、風景殊更也。昼弁当すまして、阿部氏の案内に所々散歩す。よほど、三、四層楼とも云へきもの見二登りて、一望下を望む。実に着色画の如し。沼ニは小舟沢山ありて、遊船もあり。帰りに、みな其舟にて向ふの岸に着。十丁程近道といふ。予ハ車にて善導寺に参り、宝物参観。実に珍らしき物あり。こゝにて松本楓湖氏に逢ふ。四時半に汽車乗て、浅草六時、一同無事帰。此時、風あり。夜雨。

\*茶や(茶屋) \*つゝし(躑躅) \*つゝし(躑躅) \*ぬま(沼) \*云へきもの(云へき物)

四月二十五日 乙丑 火曜

昨夜より雨しきり也。三姫宮殿下成らせられる。発信 阿部政五郎え。久岡あさえ。遠田静子え。

(四月二十六〜二十八日、記載ナシ)

四月二十九日 己巳 土曜 代々木石山家二行。

朝、倫理済て、十時より、予、正子と代々木石山家二行、大炊御門家二行。又、此里は田舎めきて、青葉の陰、みとりしたゝる風情に、このめ煮て、種々なる御談話中、家政さまも御出にて、午餐、又、御八ツなどにて、五時、御暇申て、みな同道、伴子つれて帰、一宿。

\*このめ(木の芽)

四月三十日 庚午 日曜 雨。 閑院宮妃殿下、御学友、及姫宮殿下の御学友を召さるゝ事。

朝より空のみ気つかひたり。一同、車と云事になる。午下一時より、予、先に参る。

(五月)

五月一日 辛未 月曜 晴。六十(度)。 秋元子え四時、五時之内。

課業済て、朝、斎藤仁子、熊谷より来る。李子と同道にて、閑院宮え参殿。昨日の御礼申上る。御息所御対顔仰付られ、三十分計御咄し申上たと云。午下五時前より、予、李子と同しく、秋元邸二行。子爵様と種々なる談話にて面白く、食堂にて御晚餐。日本食、よほど美味なる御料理にて、花屋の烹と云。八時帰。

発信 遠田静え。黒沢綾え。伊藤種え。福島四郎。原氏え。

五月二日 壬申 火曜 晴。64(度)。

朝八時過、三殿下成らせらる。御稽古申上る。午下一時、出門。閑院宮様え参る。御息所拝謁。からゝ二籠、紋縮緬友仙一反、三十日拝謁之者より献上す。大々御満足あらせられる。已而退出。山内家え出て、広瀬にも、八重子様にも御めにかゝる。御結納の御咄申上る。七日、大吉日のよし。九条様え上り、恵子様ニ、妃殿下の御病氣御見舞申上て帰。夜、松本氏ニ逢て、七日の事申入てくれる様頼置たり。今夜にも秋元子え参るよし也。

受信 長尾収一氏より書至。六日午下二時招待。

\*友仙(友禅)

五月三日 癸酉 水曜 晴。

朝より課業。

五月四日 甲戌 木曜 晴。

課業畢る。揮毫ものす。絹本二枚、書画帖と。

五月五日 乙亥 金曜 雨、午下晴。

校外生十人稽古する。午下、三殿下。

五月六日 丙子 土曜 曇。

朝、倫理済で、一時より、落合村長尾氏新築開二付、予、正子、泰夫婦、李子五人連にて行。住所も新開、晴やかなる畑の真中にて、建築も広く勝手よく建られたり。庭ハ躑躅沢山に植られて、花ハもはや過たり。青麦の中、心地よし。来客ハ、先、石山吉子、基陽、すま子、大炊御門師前、はや子、姉小路公正、基安、岡崎忠子、玉枝、延子、十五人也。其内食事にて、もてなしも叮嚀にて、一同歛尽して五時退散す。六時過帰。

五月七日 丁丑 日曜 雨。

朝九時より観世会に行。予、正子とすま子誘ふ。皇帝 橋岡、巴 清久、蝴蝶、実に奇麗、目もまはゆきを寛ゆ。片山 俊寛、山科山姥、みるへきなし。五時済て帰。

\*まはゆき(目映) \*山科(山階)

五月八日 戊寅 月曜 晴。

課業如例。来客、北里虎子、守や玉枝、秋元子使太田氏。予、鳥尾子を訪ふ。病益重きと云。医師ハ手をはなしたれと、深心にてか少しハ見所ありかゝる。帰途、津田え寄て帰。山内子より電話にて、結納の義申来る。

\*守や(守屋) \*はなし(放し) \*深心にて(信心にて) \*義(儀)

五月九日 己卯 火曜 晴。

朝、三殿下成らせられる。橋岡、基陽来る。

受信 重たけより、そら豆一俵着。

発信 房州重たけえ裕帯、紹羽織、小包にて出す。渡辺玉子え短冊出す。京都水薬師えのし梅、文出す。

\*重たけ(重威) \*重たけ(重威)

五月十日 庚辰 水曜 晴。

朝より時候あつく、裕着始める。

五月十一日 辛巳 木曜 晴。

課業例の如し。明日の準備にいそかし。

\*いそかし(忙し)

五月十二日 壬午 金曜 晴。

朝、小雨。十一日、予等、車にて上野精養軒に行。雨甚し。昨年の様なりやと気がひた

り。其内十二時頃より空晴わたりて、結構なる天気となる。続々会員打揃、一、二時頃全集。式場にて本日の祝辞朗読。李子の挨拶。畢而きねや六左衛門、伊十郎、土くもの曲あり。次、手品三番。余興済て摸擬店開らけ、上下にてサイド店、お団子、御そは、御柏餅せんへい、御茶、夏味柑。実に当年ハ殊の外の賑はしき、校友会はしめてより稀に見る所也。四百五十人計。四時、食堂ひらけ、洋食、其外御すし、御むすひ、御にしめ等沢山。五時半退散。

\*十一日(十一時) \*きねや(杵屋) \*土くも(土蜘蛛) \*摸擬店(摸擬店) \*せんへい(煎餅) \*夏味柑(夏蜜柑) \*御にしめ(煮染)

五月十三日 癸未 土曜 晴。

殊の外あつし。来客、高瀬きよ、橋本氏、宮原氏、永野辰子。稻吉吉子、縁付二付、暇乞に来る。

五月十四日 甲申 日曜 雨。 55(度)。

終日、夜迄、雨ふり通したり。時候冬の如し。予、李子と本郷座二行。万里伯を誘ふ。此雨にて堀田正義子の葬送品川東海寺にて、六時過來られる。楽天会、実におもしろく、十一時帰。

稻吉きちえ五円券を祝ふ。

五月十五日 乙酉 月曜 晴。

課業済て、墓参して帰。来客、増田艶子、長松菅子、原田照子、旧を話して五時過迄。

受信 房州重たけより。

\*\*重たけ(重威)

五月十六日 丙戌 火曜 晴。

三殿下、御稽古に成らせられる。房州より鯖の生ふし着。清水辰雄、熱病にて大学病院ニ入院すと知らせる。

発信 房州重たけえ。

\*生ふし(生節) \*重たけ(重威)

五月十七日 丁亥 水曜 晴。

(コノ日、記事ナシ)

五月十八日 戊子 木曜 晴。

皇后宮、伊勢大廟え御参拝二付、御発輦。天気晴朗。

受信 美尾のより、そら豆着。

\*美尾の(美尾野)

五月十九日 己丑 金曜 晴。  
校外生六人、稽古する。仁科こま。三殿下成らせられる。

五月二十日 庚寅 土曜 晴。

閑院宮総裁妃殿下、京都支部え御台臨二付、午前八時三十分新橋御発車、御奉送申上て帰。寄宿舎新築落成。本日、塾生移転す。晚餐会、階上二室にて、一同楽しみ悦んで会食す。実ニ宏大、奇麗にて心地よし。一同、寄宿舎塾生の万歳三呼する。額面書廿三枚、揮毫する。

五月二十一日 辛卯 日曜 晴。

朝、日の出公論より願ひの画、揮毫す。午下、予、正子、泰と神田辺買物に行。書棚、其外、煙草盆等、買得て帰。来客、斎藤仁子、兩宮信を連て来る。塾を取締る人也。夕飯を、監とく室にて仁子と共に会食す。夜八時頃迄、談話不尽。

受信 木津綿田より、そら豆着。  
\*監とく(監督)

五月二十二日 壬辰 月曜 晴。

課業例の如し。第五回目、銅像司宮原氏来る。夕七時過、不計、重たけ来る。辰雄の病氣ニ付て也。此時、蓄犬、何に驚きたるや、あばれ出し川え落て、間野いだき上げたり。直に獣医をたのみ診察する。中謝す。

\*重たけ(重威) \*蓄犬(畜犬) \*中謝(注射)

五月二十三日 癸巳 火曜 雨。

朝、小雨。獣医来る。三殿下成らせられる。

五月二十四日 甲午 水曜 雨。

課業例の如し。驟雨雷鳴。正子、朝より、代々木二行。又、同時刻に犬さわき出したり。受信 神代鶴子より返書。

\*さわき(騒ぎ)

五月二十五日 乙未 木曜 晴。

課業如例。正子、代々木より帰宅す。来客、加茂巖雄、重たけ。松森僧正より、ハワイより鉄堀文江、勇二人、入塾願出る。秋元子、山内子より電話にて、愈両家の結納取替し済たる由、申来る。

\*重たけ(重威)

五月二十六日 丙申 金曜 晴。

校外生四人、稽古する。午下、三殿下成らせられる。事務所につとめたる板垣、帰国する。

五月二十七日 丁酉 土曜 晴。

朝、彫塑宮原氏来り、写真師同道にて撮影する。自宅彫塑ニ致し度由、申来る。来客、重たけ。十時頃より、予、正子、重たけ誘ふて上野勸業展覧会へ行、出品ものをみる。中庭にて昼飯する。夫より又松屋行、買ものして帰。

\*重たけ(重威) \*重たけ(重威)

五月二十八日 戊戌 日曜 雨。

予、朝八時より近藤廉平氏を訪ふ。所勞にて不逢。三河台山内子へ行、御夫婦、八重子様共、御目に懸る。秋元氏より、月一、二回、親しみの為に対顔遊し度由ニ付申入ル。承知に相成たり。已而帰。帰途、九条公え参り、御夫婦さまに御目にかゝり、昼餐戴く。三時間にて帰。又、戸田氏御留守見舞ニ行。又、田村氏え訪ひ、岩崎小弥太男を訪ふ。みな品川のよしにて、不逢而帰。

五月二十九日 己亥 月曜 晴。

課業例の如し。来客、松本氏ニ秋元氏えの伝言す。東願寺大谷瑩誠君より、本願寺誌要一部、法楽歌集二冊一秩入、送附せられる。寿筵和歌集一冊、新潟遠藤貫三郎氏より。

発信 大谷瑩誠君え。遠藤貫三郎え。

\*東願寺(東本願寺) \*一秩(一帙)

五月三十日 庚子 火曜 雨。

朝、三殿下成らせられ、御稽古申上る。来客、板垣静子、額面取に来られる。本日、宮城姉小路さまえ参るはつ、雨にてやめに相成。六月一日に参る事。原亮三郎母死去ニ付、香料金五円を備える。

発信 大聖寺え小包もの、端書。綿田末二郎え小包もの、端書。

\*はつ(笈) \*備える(供える)

五月三十一日 辛丑 水曜 晴。

課業例の如し。午下一時より、予、早苗を拉して、宮城姉小路御局え参る。種々御話し共にて、御間の物戴、四時過退く。橋岡来る。

(六月)

六月一日 壬寅 木曜

早朝、鳥尾智世子より電話にて、子爵光、今晚死去、知らせらる。驚愕置能はず。課業例の如し。大口鯛二、御母のかたみとて、近衛予楽院家熙公の筆、心経巻物下さる。午下、鳥尾子え御悔みに行て御暇乞する。静なる御往生のよし。実に惜しき人也。学校の事二付、尽力して下さる方、残念々々。香料五円備える。来客、志賀鉄千代、晚餐を共にする。

\*智らせ(知らせ) \*置(措) \*備える(供える)

六月二日 癸卯 金曜 雨。

朝晴、午下二時頃より雨。校外生六人、午下、三殿下、御稽古申上る。来客、婦人世界富岡直方。大森大谷様より御使にて、珍らしき物下さる。

受信 池田幸より。

六月三日 甲辰 土曜 晴。

朝、倫理済て、揮毫ものす。午下一時半より、予、李子と同しく、築地立教高等女学校新築落成開校式ニ列す。構堂、雨天体操場より教室等も奇麗に都合より出来たり。式畢而、食堂にて、サンドイツチニ肉のあえもの、低皿に入て、奇麗にて心地よし。コーヒ、オモレツ。寄宿舎よりすへてをみる。日本式の旧建物にて、よほと破欠したり。追々改築のよし也。五時帰。

\*構堂(講堂) \*都合より(都合よく) \*オモレツ(オムレツ)

六月四日 乙巳 日曜 晴。88(度)。

朝より、はしめての熱気、八十八度と云。早昼済せて、予、正子と、観世会ニ行。すま子、先在て、三番のみ見る。はしめて紹のひとへ着る。

\*ひとへ(単)

六月五日 丙午 月曜 晴。82(度)。

課業例の如し。秋元子より紹介にて、乾淡江に面会す。寄宿舎事務所落成ニ付、李子、移転す。間取よく、すへてよく出来、清々し。彫塑宮原氏来、前より二倍の大サニ拵え来る。いまた真に入らず。さてく六ツケ敷事也。揮毫ものす。

六月六日 丁未 火曜 雨。

朝、三殿下ニ御教授申上る。

発信 秋田岡村え。依田直子え。池田幸子え。遠田静子え。

六月七日 戊申 水曜 晴、夜雨。  
課業例の如し。来客、石山基陽、橋岡 おそく来る。池田幸子、久々にて、家事貧困ニ付て、いかにか救助願度よし申さる。

六月八日 己酉 木曜 晴。夕景より雨、又遠雷。夜、雨甚し。  
朝七時より課業例の如し。揮毫ものす。来客、万里知子、塾にて一泊。

六月九日 庚戌 金曜 晴。  
校外生及三殿下御教授申上る。

六月十日 辛亥 土曜 晴。  
朝、倫理済。来客、宮原氏第八回。塾書籍室ニ天照皇太神を祭詞す。梶山氏、御霊移しする。橋岡来る。

受信 木津跡見より白木綿着。

発信 名古や佐竹音次郎え端書出す。

\*祭詞(祭祀) \*名古や(名古屋)

六月十一日 壬子 日曜 雨。

朝、北白川宮御使者齋藤毓男来る。武子女王御降嫁ニ献上物に付て、金千疋、御肴、白紋羽二重一疋、賜はる。

\*降嫁ニ(ママ)

六月十二日 癸丑 月曜 入梅。晴。  
課業例の如し。揮毫ものす。来客(記述ナシ)。夜、月さやけく昼の如し。

六月十三日 甲寅 火曜 晴。夜三更、月如昼。  
朝、三殿下成らせられ、御教授申上る。来客、黒岩氏、今般清国行ニ付、暇乞に来る。来月一日出帆の見込。午下早々、千家男を訪ふて、閑院宮に詣し、両殿下拝謁、暫時御話申上て、姫宮殿下御教授御模様拝見、迎照子勤める。畢而、御息所御方にて、御八ツを戴て下る。北白川宮え過日之御礼申上る。おこうさまニ御目に懸る。已而下り、津田え寄、しはらくにして帰。仏説無量寿経上、書写畢、同下ニかゝる。

六月十四日 乙卯 水曜 晴。  
課業例の如し。来客、千田勇子、暇乞旁、入学志願者を願に来る。橋岡来る。

六月十五日 丙辰 木曜 雨。

課業例の如し。李子の住居、漸悉皆落成ニ付、予をはしめ、一同晚餐に呼れる。新らしきに、すへて勝手よく、よき心持也。八時帰。さみたれらしき雨、終日ふり通したり。

\*さみたれ(五月雨)

六月十六日 丁巳 金曜 雨。

校外稽古日にて六人教授する。来客、斎藤仁子。本日ハ李子より、仁子、鉄千代、信子、花圃を招待いたせしか、花圃、信子ハ無拠さし支にて、外二人と予と昼餐に招かる。もと此四人か楷楽園に招かれて、不計、学校の前途ニ付、種々配慮せられ、財団法人の事も申されたる結果、今の寄宿舎も新築出来たるにて、楷楽園の料理にて会食す。午下、二殿下成らせられる。

受信 津田弘視より端書二葉着。四月廿五日出、リヲデンシヤネル港より。五月卅日ゼネバンより。伯林(ベルリン)ニテ伊藤海軍大佐ノ宅ニテ、武者小路夫婦、津田の為に会食ニ招かれたりと云。

\*楷楽園(偕楽園) \*楷楽園(偕楽園)

六月十七日 戊午 土曜 晴。

朝、倫理聞く。午下一時より、泉会ニ付、会員続々来集。講師福来博士、講演。可驚勸化力と云演題にて実に面白く、二時間ニ渡り、大喝採也。畢而新築縦覧ニ入。図書室、李子居間にてサントリツチに葛菓子、茶を出す。外来者、百五人也。盛況也。

\*大喝採(大喝采)

六月十八日 己未 日曜 晴。

朝、散歩して帰。来客、島田三郎氏紹介にて、大分県人村山徳氏面晤す。煙霞画譚新著下さる。絹本二葉依頼。午下四時前より有約、予、李子、泰、寿、石山基威同道にて、芝公園万里伯に招かる。松堂師隱室のよし。緑滴る庭前泉水之涯、さ月花を賞するため、晚餐をすゝめらる。日本料理、伊勢忠と云。酒間雑談、十時過退散、十一時帰。しはらくして雨ふり出し、終夜。

発信 渡辺玉子へ。

\*さ月花(五月花)

六月十九日 庚申 月曜

昨夜よりの暴風雨にて近所の墻壁吹飛され、実にすさまじき事限りなく、皆々予防にいそかし。本日、李子宅にて晚餐会の約あり。午二時頃には風もやみ空晴わたりて、むしあつくなる、四時頃より。葉室後室、裏松千代子、堀田正恒伯、伴子、和子、万里小路伯、酒井忠克、七人之御客にて、日本手料理の晚餐を進める。気のはる人なくて談話面白く、十一時、御帰りに相成る。

\*いそかし(忙し) \*気のはる人(気の張る人)

六月二十日 辛酉 火曜 晴。

朝、三殿下成らせれ、御教授申上る。午下四時、案内にて、李子新築祝之筈。姉小路伯夫婦、石山吉子、大炊御門家政夫婦、長尾数子、雄、石山すま子、岡崎忠子、跡見絹江玉枝代、姉小路良子様代理登代、新田息と母と。やはり手料理にて大々賑々しく、九時済て一同退散。

\*成らせれ(成らせられ)

六月二十一日 壬戌 水曜

朝、散歩して帰。課業例の如し。

六月二十二日 癸亥 木曜 曇。俄にさむく、袷羽織着る。

英国戴冠式ニ付、敬意を表する為に、学校休業す。朝より終日、揮毫ものす。正子、夕景より津田え行、一泊す。

受信 御寺御所より、うつらまめ着。

発信 房州重たけえ返書。

\*うつらまめ(鶉豆) \*重たけ(重威)

六月二十三日 甲子 金曜 晴。

校外稽古日。午下、三殿下成らせられる。御教授畢而、寄宿舎え成らせられ、暫時御遊ひにて還御なる。本日より半日授業となる。

受信 有地品之允夫婦、招待状。

六月二十四日 乙丑 土曜 晴。

朝、倫理済て、揮毫ものす。来客、勝間長源寺二男佐野正道、其子息と、娘の入学を願はれたれと、高等四年故断る。宮原氏来る。村上我石より依頼物取に来る。渡す。発信、村山徳氏え。内海格大え。東野修、遠藤貫三郎、右書画、小包にて出す。

六月二十五日 丙寅 日曜 晴。 有地品之允嗣子藤三郎、田中源太郎末女美代子、結婚披露、京橋区築地水交社ニテ、午後二時より。

朝より散歩して帰。揮毫ものす。午下二時より如約、水交社ニ行。有地男夫妻、新夫妻披露にて、はしめ庭中にて代神楽、夫より室内にて吉村、きねやの長うた、三番叟、吉原すゝめ、畢而食堂立食はしまり、盛に、万歳声中に引とりたり。

\*吉村(芳村) \*きねや(杵屋) \*長うた(長唄) \*吉原すゝめ(吉原雀)

六月二十六日 丁卯 月曜

課業如例。朝、散歩して帰。来客、村上徳氏、画談あり。

\*村上徳氏(村山徳氏)

六月二十七日 戊辰 火曜 雨。

朝より三殿下成らせられ、御教授申上候。日比野氏画、落成す。来客、中田氏細君かね女。

六月二十八日 己巳 水曜 雨、風。夜、又雨甚。

朝七時より課業例の如し。

受信 有地氏より御礼状。

六月二十九日 庚午 木曜 雨。

昨夜よりの雨甚し。課業例の如し。吹聴、鳥尾敬光襲爵被仰付。

六月三十日 辛未 金曜 雨。昨夜、大雨しきり也。裏辺ハ浸水の模様也。

昨夜一時頃より、予、ふるひを生し、いかにも堪かたく、二時、人を起し、正子起来りて、井深氏を招き診★(言十察)を乞、薬用も致して、やはり前夜の食事ニ当りたるもの。吐き出し、又、便通もありて、気分もよくなりたり。しかし、惣身つかれ、だるく、朝より、あん間させたり。校外稽古日、一同え御断いたし候。

\*ふるひ(震ひ) \*診★(言十察) (診察) \*つかれ(疲れ) \*あん間(按摩)

(七月)

七月一日 壬申 土曜 雨。陰雨不定。

朝まだ雨ながら、七時頃より晴出したり。床払して心清々し。正子、代々木へ行、一泊。夜不眠、朝まで。

受信 四恩瓜生会より岩子伝記一部。

七月二日 癸酉 日曜 雨。晴雨不定。

朝、平常の如く朝飯も食して、観世夜能に行つもり、拵もいたせしか、昼飯後早々腹痛甚しく、医師武藤氏、とくに来られて種々手当して呉られ、吐瀉いたして、漸三時頃治りたり。来客、志賀鉄千代。

七月三日 甲戌 月曜 雨。

終日、小やみなく豪雨甚し。蓐に付く。井深、武藤も来られたり。

\*小やみ(小止)

七月四日 乙亥 火曜 雨。

夜となく昼となく、あめ甚し。裏川ハあふれたり。三殿下成らせられ、御稽古申上る。直に臥蓐す。井深氏来診、武藤氏も。来客、佐藤夫人静子、桃子面談す。梅雨の夕晴、始めて日影をみる。夜、七日の月清く珍らし。

七月五日 丙子 水曜 晴。

臥蓐す。井深来診す。武藤氏も。

七月六日 丁丑 木曜 晴。

床払す。学校ハ休業す。

発信 大宮智栄尼え。

七月七日 戊寅 金曜 晴。88(度)。

校外生、長谷川、川村氏のみ。来客、斎藤仁子、本日より画の稽古願出る。午下、三殿下御稽古申上る。仁子、夜九時迄、寄宿舎にて一泊。

七月八日 己卯 土曜 晴。

仁子、朝帰る。来客、時事新報婦人記者ニ面会す。午下一時、惣身ふるひ生し、三十日夜の如し。早々武藤医来り、手当する。吐したり。水のみ也。漸ふるひも止たり。食事、一層注意する。全く面会の久しきに、つかれたる也。

\*ふるひ(震ひ) \*ふるひ(震ひ) \*つかれ(疲れ)

七月九日 庚辰 日曜 晴。

臥蓐す。井深氏、武藤氏、来診二度ツ、。

七月十日 辛巳 月曜 晴。十五夜、月、昼の如し。

臥蓐。

七月十一日 壬午 火曜 晴。夜、月あかし。

本日も臥蓐。宮様御稽古、御断申上ル。井深来診、灌腸す。武藤氏も。

七月十二日 癸未 水曜 晴。夜、月清し。

本日も臥蓐。井深、武藤、来診。

七月十三日 甲申 木曜 晴。午下四時頃、少々雨ふり、直ニやむ。すゝしさを覚ゆ。  
朝よりむしあつく、正子、五時比より所々墓参する。  
発信 本日迄に四十五軒、中元之贈りものす。

七月十四日 乙酉 金曜 晴。

本日ハ起たり臥たりす。井深、来診す。午下五時頃より雨ふり出し、六時、七時、大雷雨。  
豪雨、盆を覆すといふ。其内、三、四ヶ所落雷と覚ゆ。地響して停電す。其間に表通り一面に浸水。八時、漸晴。

七月十五日 丙戌 土曜 晴。むしあつく絶られぬ。

朝起て、北白川宮様え御使出す。今朝の新聞にては、五、六ヶ処の落雷あり。来客、久米万千代、民十郎、権九郎にて、久々の物語りにて、夕景帰りぬ。

\*絶られぬ(堪られぬ)

七月十六日 丁亥 日曜 晴。

少し起試む。夕景より雨ふり出しぬ。来客、津田よし子、十八日夜汽車にて、神戸、その外岡山地方え旅行すとして暇乞に來りぬ。安田暉子。

七月十七日 戊子 月曜 晴。

三時頃、雨しきり也。夜明て晴れたり。予、本日より出勤、授業する。正子、万里小路家に行て帰る。

七月十八日 己丑 火曜 晴。

朝より揮毫ものす。扇子十二本、団扇九本。

七月十九日 庚寅 水曜 晴。90(度)。風なく、むしあつく。

課業例の如し。揮毫ものす。

訃音、觀世清廉、十七日午前九時死去。

発信 觀世え香料五円備える。

\*備える(供える)

七月二十日 辛卯 木曜 90(度)。暑さ実に堪かたくて。

課業例の如し。来客、石井まよ。觀世送葬に付、木村代理、芝増上寺ニ遣す。朝四時より運動はしめる。靖子、早苗、静子、房州に行。正子送り金杉迄。すへて万里様え御托し申したり。六時十分出帆の鶴丸に乗込たり。  
清水初え、辰雄の見舞に使出す。

\*送葬(葬送)

七月二十一日 壬辰 金曜 晴。76(度)。土用二入る。終日曇、冷氣。  
朝四時過より散歩して帰。来客、大村梅子、小早川式子。

七月二十二日 癸巳 土曜 朝より雨。

朝、散歩して墓参す。教場に出る。本日を以、教授納をなす。皆々無事帰省す。来客、斎藤仁子。女教員衆、御礼ニ来る。夏季休暇中、半月分給料を出すニ付て也。

七月二十三日 甲午 日曜 雨。

終日、紛本しらへして、揮毫ものす。

\*紛本(粉本)

七月二十四日 乙未 月曜 雨。

本日、又病ふりかへし、井深氏を呼て手当する。臥蓐。

\*病ふりかへし(病ぶるかえし)

七月二十五日 丙申 火曜

終日臥蓐す。天、雨しきり也。夜二入て十時頃、大雨盆を覆すの勢にて、昨年の轍かと皆々躁き出し、時、停電、提灯さげて所々見廻る。もはや表ハ川と成り、玄関迄水来る。夜徹す。一時頃、尤盛也。

七月二十六日 丁酉 水曜 雨。

予、臥蓐す。東京湾の海嘯にて、洲崎遊郭、家も人も波濤にふき飛されて、死傷夥し。行衛不明も有よし。惨状限りなし。

七月二十七日 戊戌 木曜 雨。

日々の諸新聞にては東海道筋も所々の惨状、可驚也。

七月二十八日 己亥 金曜 雨。 角田氏より招かる。

雨、降つゝく。来客、志賀鉄千代。今日五時半より角田氏の招なから、予は断り、李子のみ行。島田三郎君来月渡米ニ付、御夫婦を招かれたり。石井氏夫婦も。正子、五時頃より代々木へ行、一泊。電車不通。津田弘一行、未だ神代ニ滞在のよし、廿七日出端書着。明廿九日より当地出立、岡山行。弘も同道。

発信 端書、十五軒え出す。

七月二十九日 庚子 土曜 雨。

朝より雨、又陰。天不定。夕景、棚橋絢子刀自來る。五日の月もみえたるに、夜十一時頃、大雨降来る。止ては又ふり、夜通しすさまじ。出水もと思ひたるに、さもなくて安心。正子、此夜帰る。本日、電車通する。

受信 閑院宮姫宮殿下より御書給はる。

発信 芸州久岡麻子、小包もの、同、波多の花涯え小包出す。岡山栄子え。万里小路え包もの出す。

\*波多の花涯(波多野花涯)

七月三十日 辛丑 日曜 午後より先々空晴たり、折々陰悪の空模様なり。

朝より大雨降しきる。晴雨不定。本日より祈禱はしめる。来客、橋岡氏、今夜行にて飛騨の高山に行と云。

七月三十一日 壬寅 月曜 晴。

朝起て気分もよく、所々より見舞の返事する。来客、黒川氏、此度教員の雇解れたる御礼に來る。汲泉廿九号、皇后陛下え献上。高倉典侍、小池内侍えも。姉小路良子殿え暑中見舞及書出す。

訃音、京都木田千賀、廿九日死去。

受信 唯専寺より。神代より。

発信 鎌倉棚橋作子え書及小包。

(八月)

八月一日 癸卯 火曜 晴。85(度)。

早起。散歩して帰。揮毫ものす。来客、浅山やを、石山吉子、大炊御門晨子。其内に電報着。重たけ三人、朝一番にて靈岸島十二時着のよし。迎ひの者、車三艇を遣す。二時半、三人共無事着。互に焦なきを悦ぶ。山内八重子様、御出にて、夕景迄。

受信 神代より葛素麵着。

\*重たけ(重威) \*三艇(三挺) \*焦なき(恙なき)

八月二日 甲辰 水曜 晴。85(度)。

朝、散歩して帰。来客、玉枝、山根文子。

八月三日 乙巳 木曜 雨。

終日の雨。

八月四日 丙午 金曜 雨。

昨夜よりの雨、盆を覆す。又、例の出水をあんし、四時より起て見たるに、もはや表八川となる。其内、又雨も車軸の如くふり出して、裏の川もきれたり。房州の客人にも見せ、見事也。本朝九時半、津田一行無事帰京。十一時、弘、帰宅す。  
発信 神代鶴子え。

\*あんし(案じ)

八月五日 丁未 土曜 晴。

はじめて好天気にて心地よし。朝より、予、正子、治子、いく子同道にて三越へ買物二行、あつらへものす。昨夜の雨、又には驚へき勢也。本日、昼飯に、はじめて二たき御膳二有つく。

発信 京都木田氏、香奠五円出す。

\*二たき(二炊)

八月六日 戊申 日曜 晴。83(度)。

朝、散歩して帰。時、一村雨して止。李子、閑院宮様え参る、迎照子の醜聞二付。予、病全快、井深氏断る。

八月七日 己酉 月曜 晴。

早起。散歩して帰。朝、さつと一雨ふりて止。

発信 遠藤義為え、書及小包。寺田氏え、同。御寺御所え、同。

八月八日 庚戌 火曜 雨。

早起。散歩して帰。

八月九日 辛亥 水曜 雨。

早起。散歩して帰。雨しきりに降り出し、一寸止てハ、又盆を覆す。夜に入ても同しく猛雨。重たけ、治子などにも昨年の水害の有様をかたりて、此通りの雨也と云。十時、睡に付く。十二時頃、不計目をさまして、此雨にては、もはや被害まぬかれ難しとて、裏長屋ハ火を点して、にける拵をして居る。皆々を呼起して、かた付にかゝる。小道具、箆司、手当り次第、二階えはこふ、棚え上る。万里小路俊さま、昨日の雨にて一泊中、大手伝。今年ハ泰も、弘も、石山も、其上房州よりの来客、重たけ、治子も、手ハ十分揃ひたれハ、机よ畳と、みな畳も上り、物置、長棹、箆司も、残るくまなく出来上る時、午前二時、床上一寸迄にて水量止む。先々一安心也。昨年の退夜日にて、一周忌を勤めたり。先々一同安心。

発信 手紙、端書共、十六軒出す。

\*重たけ(重威) \*にける(逃げる) \*箆司(箆筒) \*万里小路俊(万里小路智)

\*重たけ(重威) \*箆司(箆筒) \*退夜日(逮夜日)

八月十日 壬子 木曜

夜明て、いまた折々雨ふりたり。表側ハ浸水ひとく、大人の腰部迄にて、船にて通行す。万里小路伯、かろうして見舞れたり。大廻りして車にて御出也。一同、二階住居。午後、津田栄子、見舞に来る。とても此水にては見舞れず。一年生松平来られたるには驚きたり。夜、月十六夜、実に鏡の如し。本日より二階住居する。

八月十一日 癸丑 金曜 晴。86(度)。

朝に至りて、漸水引たり。泥の掃除、床下の掃除など、いそかし。所々より見舞人来る。

発信 井深氏え書をよす。

\*いそかし(忙し)

八月十二日 甲寅 土曜 晴。86(度)。

早起。散歩して帰。来客、津田弘視。

発信 所々え礼状出す。

八月十三日 乙卯 日曜 晴。84(度)。

朝、散歩して、予、李子と納涼博二行、出品物見る。朝貌夥しく陳列、秋草も。盆栽もの、すゝし。一茶店に憩て、電車にて帰。来客、岡崎忠子、高橋春江。泰夫婦、太東え行。間野、帰省す。

発信 所々え礼状十。

\*盆栽(盆栽)

八月十四日 丙辰 月曜 晴。88(度)。

朝、散歩して、酒井伯を問て帰。天晴、暑。来客、長尾収一氏、学校衛生二付、嘱托承諾せらる。

受信 井深氏より李子え返書。

八月十五日 丁巳 火曜 晴。87(度)。

朝五時過、重威一行三人共出立。李子、正子、弘、靈岸島迄送る。七時、出帆。予、此時より散歩して帰。来客、下田哥子紹介にて小沢政許、長谷川智賀子。角田氏紹介にて通相後藤氏嬢愛子、書の入門す。四三子、連れ来る。本日、午前六時と八時の二回に、浅間山大爆發あり。外人五十名、遭難、行衛不明の日本人も有由也。

八月十六日 戊午 水曜 風。風すさましく吹。85(度)。  
朝、散歩して帰。有約、角田氏、東京府土木掛長同道にて、千川の修繕、急に可致とて見  
分致され、大ゐに安心す。  
発信 水島鉄也及外十軒え。

八月十七日 己未 木曜 晴。86(度)。  
朝八時より車にて島田氏問ふ。餞別持参、暫時面晤して帰。信子さま、胃病にて臥蓐のよ  
し。東郷氏を問ふ。奥様に御目にかゝりて御留守の御見舞申入る。九月十四日横浜御着の  
予程と申事也。御玄関、及御客間、洋館、立派に新築相成たり。種々御咄し申て帰。千家  
男を問ふ。俊子さまえ御目にかゝり、暫時にして、角田氏を問ふ。栄子、四三子のもてな  
しの厚きに、しはらく閑話して帰。今夕、古屋朝子より、石井多嘉子病氣之処今日〇時廿  
分死去のよし知らせにて、驚愕置能はず。  
\*予程(予定) \*俊子(智子) \*置(措)

八月十八日 庚申 金曜 晴。夕景、細雨。86(度)。  
早起。散歩して帰。揮毫ものす。今朝、李子、横浜へ行。石川氏之悔、其外え出向、一泊。  
来客、橋本太吉氏、建築物見分せられる。植村氏、碑題字の依頼をうく。

八月十九日 辛酉 土曜 朝雨、已而晴。四時、大雨一しきりにて止、又降る。涼氣を覚  
ゆ。  
早起。墓参して帰。終日、揮毫ものす。駒女来る。予、四時頃より、秋元子を問て帰。李  
子、夕七時頃帰。

八月二十日 壬戌 日曜 雨。朝雨、已而晴。  
早起。散歩して帰。揮毫ものす。来客、室生氏細君 娘の入学を願出る、五島善子御子息守  
輝。四時頃より雨ふり出し、夜二入、益強。十二時頃、尤つよく、九日の轍かと思ふ。本  
日、総床ネダを入れて、大工及畳屋も来りて、畳敷かせたり。

発信 五軒え書をよす。  
\*総床ネダ(総床根太)

八月二十一日 癸亥 月曜 晴。87(度)。  
午前三時頃、起出て水量をみる。猛雨甚し。来客、津田栄子。姉小路良子様え御見舞の使  
出す。泰夫婦、従太東帰。  
受信 房州いく子より。  
発信 房州いく子え。姉小路さまえ。

八月二十二日 甲子 火曜 晴。 85 (度)。

朝、散歩して、五軒町姉小路を問て帰。揮毫ものす。来客、門野玉子、樋下田鶴子、養子酒井謙治郎と妹を送り来る、上野石子、子供と。

八月二十三日 乙丑 水曜 晴。 87 (度)。

早起。散歩して帰。十一時より車にて新橋停車場に。遣英御名代東伏見宮両殿下還御二付、御迎申上る。○時四十分御着。御両殿下共御機嫌よく、恐悦申上而帰。泰、寿子、平塚松永氏え行、泰のみ帰京。宮原氏来る。

八月二十四日 丙寅 木曜 晴。風。 85 (度)。

早起。散歩。雨少しふる。已而晴。弘、二番船にて渡房す。揮毫す。

八月二十五日 丁卯 金曜 晴。 88 (度)。

早起。散歩して帰。揮毫ものす。宮原氏来る。

訃音、平松時厚死去、廿六日葬式。大橋新太郎二女富子死去、香料三円及弔詞出す。受信 房州重威より梨子着。

八月二十六日 戊辰 土曜 晴。 88 (度)。

早起。散歩して帰。揮毫ものす。来客、志賀清子、宮原氏。内閣、桂総理始総辞職。平松子、朝九時葬送二付、木村代理。大橋富子、午後三時葬送二付、木村代理。

八月二十七日 己巳 日曜 晴。 88 (度)。

早起。散歩して帰。朝、房州より電報、八時出帆、午下一時半、霊岸島着。正午早々、正子迎二行。四時過而も不帰来、心配す。漸此時、一同無事帰宅にて、大々安心す。船中動揺なく、横浜よりの引船にて、霊岸島一面の船にて延着す。宮原氏来。石山正子も。

八月二十八日 庚午 月曜 晴。 88 (度)。

朝、散歩して津田氏を問ふ。朝食を共にして、十時帰。泰、午早々、平塚え行、寿子を迎て帰。

八月二十九日 辛未 火曜 晴。 85 (度)。

朝、散歩して帰。揮毫ものす。宮原氏来。発信 房州万里、重威、遠田え書をよす。

八月三十日 壬申 水曜 晴。さつと雨ふる。 80 (度)。

朝、散歩して、土方伯を問ふ。不在、不逢而帰。来客、婦人画報記者川崎文子。

八月三十一日 癸酉 木曜  
早起。散歩して帰。

(九月)

九月一日 甲戌 金曜 晴。涼しさ身にしみたり。  
有約、朝八時より、予、正子と代々木大炊御門家政氏二行。大ゐに涼氣を覚ゆ。別天地也。  
庭など散歩して、昼餐晨子さまにて、夕飯を師前さまと云。大ゐニ閑話はつみて、夜、是非一泊と云はれて、一宿す。極々静なる事限りなし。月もよし、宅え今夜一宿の電話かける。

\*はつみ(弾み)

九月二日 乙亥 土曜 晴。  
朝五時頃起て、山内侯のわたりより野辺散歩する。清涼。草花種々を摘みとりて、八時頃帰。九時頃、三家え暇乞して帰。来客、小沢氏。

九月三日 丙子 日曜 晴。  
朝、散歩して帰。下座敷、掃除、かた付物して、上座敷の諸道具類、皆、下えおろす。下住居と相成たり。

九月四日 丁丑 月曜 晴。80(度)。  
朝、散歩して帰。午下、下瀬氏の病を問ふ。三十一日より発病にて、コンスイ状態にて、もはや五日間と云。見籠なしと云。酒井忠興伯を問ふ。先平らのよし也。

発信 水島氏、書画。貫名氏え、小包にて出す。

\*コンスイ状態(昏睡状態) \*見籠なし(見込なし)

九月五日 戊寅 火曜 晴。80(度)。  
朝、散歩して帰。八時より、近藤廉平男を問ふ。新潟え旅行中、不逢而帰。土方伯を問ふ。茅ヶ崎え行て不在。午下二時より、宮城御内儀良子様御局え参り、御病氣中ニ付、種々御咄し申上、御八ッ戴て、五時過下ル。  
発信 木津跡見氏。

九月六日 己卯 水曜 雨。昼頃より雨晴。76(度)。

本日より教授始をなす。新入生七名、外皆断ル。雨中なから、塾生もよく揃ふ。本日八昼迄にて、明日より朝八時始り也。

受信 ストークホルムより伊藤静江。  
発信 神戸水島氏、岡山貫名氏え。

九月七日 庚辰 木曜 七月十五夜。晴。83(度)。

早起。散歩して帰。八時始り、書画教場新築にて、始めて画の教授する。大に心地よし。午下二時より閑院宮え参り、両殿下ニ拝謁す。今般近衛師団長に成らせられたる恐悦申上る。三姫宮殿下御教育、佐野氏ニ委ねられたるニ付、是迄の御挨拶仰戴く。四時帰。来客、大炊駒。

訃音、下瀬雅允死去、九日午下一日葬式、神祭也。

\*一日(時)

九月八日 辛巳 金曜 晴。83(度)。あつき堪かねる。

早起。散歩して帰。校外生稽古始、小早川、大村、角田、河村、昼迄ニ済。午下五時より下瀬氏え悔みニ行、玉串金三円備えル。来客、石山友誠、西沢公雄氏。

\*備えル(供えル)

九月九日 壬午 土曜 晴。82(度)。

早起。散歩して帰。倫理聞く。午下四時より常務会を開く。三時に、原氏、角田氏、橋本氏、集会す。建築場を見分す。種々協義、建築は此際すへて全部建築の事と相究候。角田氏、六時に帰らる。夕餐を出す。夜九時済。

\*相究(相極) \*協義(協議)

九月十日 癸未 日曜 84(度)。

朝八時より駿ヶ台岩崎男を訪ふ。執事に逢て寄附を頼む。戸田伯を訪ふ。奥方極子様ニ御目にかゝりて、右の次第を頼む。田村氏を問ふて、昼飯を呼れて帰。三時より、中島孝行氏妻作子死去ニ付、悔みに行。玉串五円を備え而帰。四時頃より雨ふり出したり。津田氏挙家来。

訃音、中島作子、昨九日死去、十四日午前八時葬送、青山。

\*備え(供え) \*駿ヶ台(駿河台)

九月十一日 甲申 月曜 晴。朝(記述ナシ)。81(度)。

早起。散歩して帰。課業如例。

九月十二日 乙酉 火曜 雨。70(度)。

早起。散歩して帰。三殿下、御稽古に成らせられる。

発信 茨木県松田、岐阜山本、愛知新美、岩代山川、備後浅野。

\*茨木県(茨城県)

九月十三日 丙戌 水曜 雨。64(度)。

雨にて頓涼。せるに羽織と云ふさむさ。課業例の如し。

\*せる(セル) \*さむさ(寒さ)

九月十四日 丁亥 木曜 晴。85(度)。

朝、散歩して帰。課業例の如し。酒井忠克様御夫人喜見子さま、昨日、男子**妨婉**、母子共  
壮健との御知らせあり。東伏見宮様より御使にて、此度御帰朝二付、御挨拶として御目録  
賜る。尾州徳川侯を問ふ。良子様御旅行二付、家扶二面会す。午下四時より、予、李子と  
帝劇に行。西沢氏より招待也。柳沢家之騷動仕組、夢殿の場、志貴山谷間之場 尤骨子、  
扇屋熊谷、切、心機一転、面白くかんしたり。

\***妨婉**(分婉) \*かんし(感じ)

九月十五日 戊子 金曜 曇。83(度)。

早起。墓参して帰、予、正子と。別科稽古日、五人。午下、宮殿下成らせられる。来客、  
田村源姉二人と子共と。秋元子御使太田英厚来。

九月十六日 己丑 土曜 雨。

朝、倫理聞く。岩崎小弥太男を問ふ。秋元子二行。近日御結婚の御悦申入ル。午下、王子  
洪沢男を問ふ。御夫人に御目にかゝりて、一時間ほど御咄して帰。酒井忠興伯を問ふて帰。  
重たけ、夜に入て着す。

受信 朝、重たけより端書着。又電報にて、一番立つた。

\*重たけ(重威)

九月十七日 庚寅 日曜 晴。85(度)。

朝、散歩して帰。本日より、新築食堂開する。

九月十八日 辛卯 月曜 晴。86(度)。

早起。土方伯を問、面談して帰。課業例の如し。来客、鳥尾千世子。午下二時より市兵衛  
町原田二郎氏を訪ふ。在宅にて久々の対面、何くれと物語などして、本校の寄附金を依頼  
す。それより有約て山内八重子様へ行。此度、秋元子との婚約相成候二付、御祝物す。夕  
七時帰。

九月十九日 壬辰 火曜 晴。 83 (度)。  
朝、散歩して帰。三殿下成らせられ、御稽古申上る。 来客、岩浪稲子。  
発信 秋田田中勝子え。原田二郎え書及趣意書出す。

九月二十日 癸巳 水曜 晴。 84 (度)。  
朝四時廿分より出門。予、重威、石山氏と霊岸島え行。六時、姉小路良子様、房州え転地  
二付、六時十分鶴丸汽船にて御出帆、御見立する。四時頃、雨にて、其うち雨止、風なく  
穏なる空にて、先々安心す。本日、軍事公債の金三百円請取、利子七円五拾銭共。泰、太  
東え行。

九月二十一日 甲午 木曜 彼岸入。晴。午下五時前より雨ふる。 80 (度)。  
課業例の如し。 来客、手塚氏、逢而相談する。同、石山友誠。  
受信 重たけよりは書。

\*重たけ(重威) \*は書(端書)

九月二十二日 乙未 金曜 雨。午下二時頃より雨晴。  
朝、散歩して帰。校外生五人。午下、三殿下成らせられる。  
受信 姉小路良子様より御書至。  
発信 重たけえ書をよす。

\*重たけ(重威)

九月二十三日 丙申 土曜 晴。  
朝、墓参して帰。倫理聞く。午下、浅草別院にて玉耀会発会、参集する。発会にして、盛  
なり。この院中に墓参する。六時帰。

九月二十四日 丁酉 日曜 秋季皇霊祭。晴。  
好天気、実、秋晴、心地よし。朝、墓参して帰。寄宿生残りの分、四十四人連にて、李子、  
雨宮、鎌倉遠足す。祖先祭典執行す。 来客、原田二郎氏、寄附金の義二付、種々相談する。

\*義(儀)

九月二十五日 戊戌 月曜 雨。 69 (度)。  
本日午下一時より海事協会。  
朝、光円寺え参り、伯母三十七回忌二付、読経を頼む。課業例の如し。午下一時より、東  
伏見宮え詣し、御息所拝謁、種々御話し申上て去る。海事協会相談会ニ会す。新艦造設ニ  
付、寄附金二付いかなる趣談にしてかとの相談也。有地男之演舌ありて後、御合の物、  
種々活動写真、余興もありて面白し。夕景帰。

\*趣談(ママ)

九月二十六日 己亥 火曜 雨。 68 (度)。

朝、三殿下成らせられ、御稽古申上候。

発信 大宮智恵、遠田静え。

九月二十七日 庚子 水曜 晴。 84 (度)。

朝、散歩して帰。課業例の如し。午下より広尾井上良馨子を問ふ。御夫婦御在宅にて、種々談話あり。此度令息虎様御結婚、御祝物をさし上る。伊集院夫婦、中島御嫁さまの姉なる方にも面会して、暫時にして帰。

九月二十八日 辛丑 木曜 晴。 84 (度)。

朝七時より課業例の如し。午下より矢来酒井伯を問ふ。御出産の御子さま、実にたくましく、伯爵の跡踏仁と見える。丈夫らしく、めて度限りなり。忠道様御夫婦、忠克様御子様かた、御一同に御めにかゝり、しはらく御咄して帰る。この途路、大隈伯を問ふ。折ふし、英人、米人、及蔵原氏、及内ヶ崎作三郎氏と大ぬに談話有て、又、米人婦人共三人、是ハサンフランシスコ大博覧会ニ付、来ると云。通弁津田梅子も大ぬに悦こんで珍らしく談話する。夕景帰。来客、堀田伴子様。山内八重子様、秋元子え御入興日。

\*めて度(目出度)

九月二十九日 壬寅 金曜 晴。

朝より校外生稽古する。午下、三殿下も成らせられる。畢而、予、正子と同しく、新橋三時十五分汽車にて横浜へ行。原氏より迎ひの車来りて、うち乗て三溪原氏二行。久々大ぬに悦はれて、種々の御はなしに時を移す。この時、古屋朝子も来合せて嬉しく。途中、横浜より三の溪迄の、盛に人家もたち並ひて、賑々しき事也。晚餐も済て、夜十時頃、睡につく。広々と奇麗に心地よし。途中、大森辺より雨ふり出したり。

九月三十日 癸卯 土曜 晴。

朝もゆるりと起て、座敷よりのななめ、実に其絶景ハまたなき一大活画。心も清く広らかにして快曠たり。珍らしき紫式部日記、藤原時代の絵まきものみる。結構いはん方なし。朝、散歩、安子、春子、八重子さんの御案内にて、秋草の思ひ／＼にさきたる、当年ハ風の為にみな臥折れたるとの事ながら、中々に見栄えあり。海に、山に、野に、里に、よく調ひたる大園也。家に帰りて昼飯も済て、二時何分の汽車にて自宅に帰る。両日の極楽世界と云へし。

受信 徳富洪水氏、九十歳の記念硯箱着。

\*絵まきもの(絵巻物) \*徳富洪水(徳富洪)

(十月)

十月一日 甲辰 日曜 晴。 井上大将男虎と徳子の結婚披露会、水交社、午下二時。朝、散歩して帰。朝、観世会ニ能をみる。珍らし。昼迄にて帰。午下二時より築地水交社ニ行。井上良馨令息、中島徳子との結婚披露。実に盛なる事也。余興、庭にて種々あり。畢而上の余興、山木連中三曲、熊野、松竹梅、済て食堂開かれ、点灯まはゆきに、万歳声中に帰る。

\*まはゆき(目映)

十月二日 乙巳 月曜 晴、夜雨。

朝、散歩、墓参して帰。課業例の如し。来客、小沢くわ子夫人。発信 大宮智栄、依田直子、遠田静子、秋元子。

十月三日 丙午 火曜 曇。風甚し。暴風、夜雨。 永田町婦人教育会にて午下一時半に東洋婦人会。

朝、三殿下成らせられる。御稽古申上る。午下より村井氏へ行。此度、娘久子に養生結婚齊ひたる二付、御祝物持参す。孝子老人ニ逢て帰。婦人教育会相談二付、此度清国より考察実業団渡日二付、歓迎場所すへてを相談する。鍋島夫、小笠原伯夫人、山脇、村井うの、清藤、肝付、其外と也。五時帰。此時、鳩山死去を聞く。

\*養生(養子)

十月四日 丁未 水曜 雨。 秋元子園遊会、午下三時。

課業例の如し。午下三時より、予、李子と、秋元子結婚披露園遊会ニ招かる。御庭ハこの雨にて、御洋館にて御夫婦及若御夫婦、客を迎られる。秋元子御親戚の御親しきと、山内御親戚と、板垣夫婦、土方、佐々木未亡人、凡五十人計。御媒酌大久保子、南部子、相馬子、戸田子、みな知りたる方にて、二階日本間にて、吉村伊十郎、杵屋の連中にて、鶴亀、七福神、実に三味線のけふの面白きにかんし入たり。畢而、洋館にて立食、点灯後、御談話はづみ、七時帰。

訃音、鳩山氏死去、六日午後一時、谷中墓地にて神葬。

\*吉村伊十郎(芳村伊十郎) \*かんし(感じ)

十月五日 戊申 木曜 曇。

課業例の如し。来客、小沢くわ子。柳谷ちよ子、米婦人、此度渡日に付、山本建雄大臣宅にて招待致され候二付、九日午下三時より、夫人のみの集会を依頼致されたり。汲泉雜誌出来る。

\*山本建雄(山本達雄)

十月六日 己酉 金曜 晴。頗晴朗。中秋明月。

校外稽古日。三殿下も成らせられる。有約、予、李子と、四時半より帝劇に行。田村氏に招かる。女優劇、始めてみる。かんしんす。世つき會我、五郎、けはい坂少将、森律子よく出来たり。喜劇も面白く、十一時帰。月一点のくまもなく、珍らしき清光也。心地よく車にて。霜ふりたるかと思ふほと寒くかんしたり。

\*かんしん(感心) \*世つき會我(世継會我) \*けはい坂少将(化粧阪少々) \*くま(隈) \*かんし(感じ)

十月七日 庚戌 土曜 晴。午下一時より帝国ホテル、村井吉兵衛。

朝、散歩して帰。午下一時より帝国ホテルに行。村井養子弥吉氏と久子の結婚披露会と云。さしものホテルも満々たる来客、千八百人と云。余興、狂言福の神も済て、燕林の講釈也。次、小督嵯峨の奥住居の場、高麗蔵、梅幸之連次、二番にて済。食堂開かれ、万歳声中に帰。帰途、志賀氏を問ふ。暫時にして、市兵衛町原田氏を問ふ。晩食を供にする。寄附の事、とても咄にならぬ、うはさの通り也。

\*講釈(講釈) \*梅幸之連次(ママ) \*供(共) \*うはさ(噂)

十月八日 辛亥 日曜 晴。

終日、揮毫ものす。来客(以下、記述ナシ)

十月九日 壬子 月曜 雨。終日ふりつゝ。

朝三時起きて、雨の音を聞きて、遠足会もやめと思ふ。昨夜よりの電話、引きりなし。もろ子、拵へも出来て、ふりなから行ふと云、断然止と云。両国、ところ山氏、両国くい留二行。実に雨の為に大さはき也。課業、昼迄にて休む。予、午下二時半より、大蔵大臣山本氏宅へ行。本日ハ、シヨルダン博士の細君を招待せらる。東京の知名之教育家婦人、大てい集る。廿人計。来客、玉枝、夫人画報枝元氏。

\*ふり(降り) \*なから(ながら) \*ところ(野老) \*くい(喰い) \*さはき(騒ぎ) \*シヨルダン博士(シヨルダン) \*夫人(婦人)

十月十日 癸丑 火曜 晴。午下、曇。

朝、三殿下成らせられる。引きりなしの電話、深更迄。

十月十一日 甲寅 水曜 晴。

朝四時起。拵る。五時、整列して出門。表町より電車にて両国停車所二行。通学生も皆集。七時汽車にて、空秋晴の気色、田園よく実り、生徒三百六十人、教員、其外とも八十人に

て、八時半、稲毛海気館二着。暫時休息して、皆、海二行。また干汐に至らず。船二乗るものもある。予ハ松原にて松の写生ニかゝる。磯つたひして遠く迄行て、別座敷ニ歸りて昼の弁当を喫して、それより汐引つゝある。皆、手に手に貝籠をさげて、はまくり、あさを拾ふ。たちまちに籠に満ると云、面白さ、たまらぬ。干汐、大広らかなる遠あさになりて、益面白く、一度あたりの六、七合位ハある、尽しなき、又楽しさ限りなく、実に終日の快樂也。四時揃にて、五丁余と云一直線の道すから、徒歩して停車所に行。五時半、両国二着。無事退散す。天気晴朗、暑からず、寒からず、すゞしき風も少々ありて結構々々。

\*気色(景色) \*磯つたひ(磯伝ひ) \*遠あさ(遠浅)

十月十二日 乙卯 木曜 晴。朝、天晴朗、午下より陰。

休業。朝、散歩して津田を問ふ。朝食を喫して帰。姉小路良子様、房州より御帰りのよし、申来る。正子、朝より平河町及代々木二行、夕帰。石山氏、不帰。

十月十三日 丙辰 金曜 雨。昨夜よりの雨。

朝、校外生五人、及、午下、三殿下成らせられる。朝九時、津田氏新橋着のよし也。十二時四十分、伊藤静江、独逸より帰朝二付、李子迎ニ新橋迄、迎に(衍)行。

十月十四日 丁巳 土曜 雨。終日、細雨ながらふり通し。

朝、倫理聞く。午後より泉会。細雨ながら、会員、殊の外集る。演題、二木博士、深呼吸。三時ニ来られて四時半まで、腹式呼吸之はなし、器械もてせられ、面白く聞たり。新築画教室にて満員。畢而塾食堂にて菓子、御すもしを出す。電灯点す。泰、午下三時より、泊りかけ、猟始め二行。

十月十五日 戊午 日曜 雨。終日ふり通したり。夜も。

朝、墓参して帰。泰、夜ニ入て帰。嶋八羽の得もの也。鳥よりも猟人の方多くして、得ものまれ也と云。

\*得もの(獲物) \*得もの(獲物)

十月十六日 己未 月曜 雨。

朝、散歩して帰。課業例の如し。

十月十七日 庚申 火曜 神嘗祭。晴。

朝、散歩して帰。正午より、余、正子と、電車にて代々木久米氏へ行。みな悦ひて、先、広庭を逍遙す。実に、その広き可驚。能楽堂前の座敷にて謡、つゝみ、仕舞など大くはつみ、三須も来られて、とう／＼夕餐を喫して帰。

\*つゝみ(鼓) \*はつみ(弾み)

十月十八日 辛酉 水曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。午下、谷中酒井夏子様の御墓所に参拝す。それより酒伯様へ参る。夏子様五周年祭二付、招待せらる。御客、御夫人のみ。御庭の御神前に参る。忠興様、御尊上迄来てくれと仰せられて、御病のはしめより、今日迄の七年間、御病難の御咄しにて、此度ハふとした事より、よき薬を求められ、先、全快も出来へくかと被存ると御悦二相成、御元氣よく長々の御物語伺ひ候て、涙にくれ候。晚餐の御饗応にて、八時帰李子誕生日にて、一同呼れる。

\*仰せられて(仰せられて)

十月十九日 壬戌 木曜 晴。

朝四時起。出立する。五時半整理、出門。新橋、汽車七時廿分出発。校長はしめ、先生、長尾氏、須川、高橋、泰、寿子、基陽、石山威、横山、惣員八十四名。天氣晴朗、心地よし。国分津え十時過。電車にて、十一時廿五分、湯本島屋にて昼飯すませて、一時三十分、畑着。生徒等、道もよく、徒歩して、三時廿五分、石内着。夜も、大／＼元氣よく遊ひたり。皆十一時就眠。

[図] 斯の如し。日照多しと云ふ。

[図] 六月頃より十月迄、月かくの如し。雨多し。

\*国分津(国府津)

十月二十日 癸亥 金曜 晴。

朝とくより、生徒等、拵出来て、釣などして遊ひたり。九時、石内より願に絹本一枚揮毫す。九時出発、徒歩して、離宮拝観仰付らる。相変らず結構有かたく、仕人え約束の短冊を贈る。去りて、船五艘にて、あしの湖より権現下迄付る。箱根権現に参拝して、池尻にて小憩、昼弁当遣ふ。一時、出発、二時廿分、底倉蔦屋二着。予、女教員四人ハ新築四階室、生徒等、二階。夜、細雨。今夜も遊ひ納とて種々面白き遊ひにて、十一時比迄。出湯もありて結構、すへて便利也。

\*朝とく(朝疾) \*あし(蘆) \*池尻(湖尻)

十月二十一日 甲子 土曜 雨。

朝四時起て仕度する。小雨ふる。八時出発。此時、雨やみたり。小田原三好やにて昼弁当遣ふ。海岸の波、殊に高し。高き波打よするを面白く、波とかげつこする。あき足らず。二時電車にて、国分津、三時三十五分汽車発、新橋七時着。無事一同帰着す。受信 松茸二籠、佐野琴。松茸二籠、青木久衛。林檎一箱、石井しか。

\*国分津(国府津)

十月二十二日 乙丑 日曜 晴。  
終日、旅行のかた付する。

十月二十三日 丙寅 月曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。正午より上野官設展覧会をみる。日本画、大物も多く、  
すへて研究の巧現はる。洋画、大物なし。見栄もなくて、先、日本画勝れたり。修学旅行、  
五年生のみ本日休業。

受信 松茸一籠、依田直子。松茸一籠、多気善兵衛。

発信 依田直子え。佐野琴子え。

十月二十四日 丁卯 火曜 晴。

朝、散歩して帰。三殿下成らせられる。来客、加野十次郎。泰、石神辺え獵に行、一泊。  
発信 尾道内海省三え。

十月二十五日 戊辰 水曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。来客、土井早苗、橋岡も。泰、朝帰。大鴨五羽、鳩七羽、  
鶉二羽、外二小鳥三羽の大得もの也。方々え福わけす。

受信 松茸一籠、中島より。

発信 大坂中島一治え。

\*得もの(獲物)

十月二十六日 己巳 木曜 晴。 橋岡素謡会。

課業例の如し。午下、橋岡宅にて婦人素謡会。十六人計にて六番謡ふ。橋岡、六時三十分  
汽車にて福岡へ行。

受信 尾道より花筵着。重たけより書至。

発信 房州重たけえ。信州大宮智栄尼え。

\*重たけ(重威) \*重たけ(重威)

十月二十七日 庚午 金曜 晴。

校外生稽古日。午下、三殿下成らせられる。

(十月二十八日、記載ナシ)

十月二十九日 壬申 日曜 雨。

(コノ日、記事ナシ)

十月三十日 癸酉 月曜 晴

受信 千田勇子より林檎着。台湾加田菊より文旦着。

十月三十一日 甲戌 火曜 晴。

(コノ日、記事ナシ)

(十一月)

十一月一日 乙亥 水曜 晴。夕景、少雨、勿晴。

本日より、天皇陛下御西下、大演習在らせられ候ニ付、御還行迄、御祈念申上る。  
封筒七百枚印刷す。はしめて綿入を着る。

受信 大谷光瑞伯より。

\*勿晴(忽晴) \*還行(還幸) \*印刷(印刷)

十一月二日 丙子 木曜 晴。

受信 波多の花涯より。

\*波多の花涯(波多野花涯)

十一月三日 丁丑 金曜 天長節。晴。 外務大臣夜会行。

朝八時半、生徒参集。新築式場にて、校長、教員一同着席。生徒一同着席、君か代三唱、畢而校長、教育勅語拝読、畢而一年生より遊戯、二年、三年、四年、五年の遊戯、畢。式場、遊戯場の広きに、始めて清々しく心地よし。一同え菓子出す。十一時、全相済、大食堂にて、校長はしめ家内一同、教員、寄宿生一同、御祝御膳にて午餐会。賑々しく、是も始めての式也。

十一月四日 戊寅 土曜 晴。

朝、散歩して帰。姉小路良子様え画をさし上る。

発信 大坂唯専寺え。

十一月五日 己卯 日曜 晴。 歌舞伎行。

朝、散歩して帰。午前十時より、予、李子と同しく竜明館え行。土井早苗、田鶴子、土井藤平、其弟、竜明館家にて歌舞伎座二行。菊やまとより。十一時より始る。改築披露、歌右衛門襲名披露とにて、立錐の地もなき盛也。始、鎌倉武鑑、其二、其三、道成寺、切、

堀川お俊伝兵衛。みな面白く、十一時過、畢而帰。

十一月六日 庚辰 月曜 晴。70(度)。午後一時より岩倉子行。朝、散歩して帰。課業例の如し。

受信 加藤民子より林檎着。  
発信 房州跡見え。森堯子え。加藤民子え。

十一月七日 辛巳 火曜 晴。午後早々、本所安田行。

大元帥陛下御発輦。朝、三殿下成らせられ、御稽古申上る。午下一時より生徒全部連て本所安田氏え行、丹精の菊を見る。昨年よりハよほと花もすへて出来よろしく、見栄あり。一同大悦。三時、暇を告て、それく電車にて帰。

十一月八日 壬午 水曜 晴、夜雨。愛国婦人、偕行社にて午後一時参集。

朝、散歩して帰。課業例の如し。電報、重たけ、一番船にて出京と云。来客、石山すま子、姉小路延子、壺井久馬三氏妻泰子。夕景、重たけ来る。橋岡も。午下一時より、偕行社二行。会長阿部篤子、浜尾作子を、理事、判議員より招待す。細川風谷講談、三代目中村歌右衛門のはなし、面白く、跡は杵屋千代の連中、長唄四季の跡、連獅子とにて、食事。予ハ此時退散す。丹羽花子来、谷口みほ子より寄附金持参。

\*重たけ(重威) \*壺井久馬三(坪井久馬三) \*重たけ(重威)

十一月九日 癸未 木曜 晴。帝国ホテルニテ午後四時廿分、久米氏。

朝、散歩して帰。課業例の如し。午下三時半より、予始、家内五人連にて帝国ホテルに行。久米氏之輔長女万千代と小林慶太の結婚披露会。古市公威御夫婦の媒酌にて、来客も大そう大せいにて、実に盛典。余興、始、狂言三本柱、畢而食事、后、六地藏、畢而、小三郎一座長唄勸進帳、后、石橋、済て九時帰。養子慶太氏、人格もよく、有望の人らしく見ゆ。発信 宮崎冬子え。

十一月十日 甲申 金曜 曇、后晴。新田行。

校外生五人、午下、三殿下成らせられる。姉小路権典侍様より、明十一日雨天ならば御出之事、申来る。午下四時頃より、家内一同、五人連にて行。蕎麦のすしを上ると云事。隣家すし店主人のすいをこらしたるとか。蕎麦ををしすしの様に上に海老などハ例の通りにて、食天狗のたへるものと。風味もよく珍らし。色々馳走ハ有たり。此座に、元旗本人にて、新田の裁判官の時分、下役にて仕ひたる人、座の取持、先、御太鼓と云、面白き人也。年ハ七十一。食後、席画する。九時帰。月清し。

\*すい(粹) \*こらし(凝らし) \*をしすし(押しすし) \*たへる(食べる)

十一月十一日 乙酉 土曜 晴。  
朝、散歩して帰。揮毫ものす。

十一月十二日 丙戌 日曜 晴。  
朝、散歩して帰。終日、揮毫ものす。

十一月十三日 丁亥 月曜 晴。 姉小路良子様成らせられる。

課業例の如し。午下一時頃より権典侍様成らせられる。とよ御供。久々にて、御病後ながら御肥満もあらせられ、みけしきうるはし。二階座敷にて茶菓などさし上、暫時にして、学校建築を御覧ニ入る。寄宿舎すへてを御覧にて、門丈を、漸、覚えたと仰せられる。すへて皆替りたり。済て下座敷にて食事さし上る。堀田伴子様も御出にて、御一緒に種々の御咄し。重威もをり、夕景六時に御帰に相成る。土産として、われえ白羽二重一疋、金の御文鎮二、子供二人え緋の紋縮緬の御鳴海一疋、色々御添物、其外名々え御羽二重一反に御添物等、皆々大悦ひ。

\*銘々

十一月十四日 戊子 火曜 晴。 本日午後二時半より婦人教育会え。  
朝、三殿下成らせられ、御稽古申上る。

十一月十五日 己丑 水曜 曇、後晴る。  
課業例の如し。朝、墓参して帰。

十一月十六日 庚寅 木曜 晴。  
朝、散歩して帰。課業例の如し。午下早々、上野官設展覧会に行、心静に見て帰。帰途、茅町新家二行。過日、中井遺書、贈られたる御礼二行。不在にて直ニ帰。受信 手塚氏より書至。

十一月十七日 辛卯 金曜 晴。  
昨夜より少雨、已而晴。校外生、稽古する。午後、三殿下成らせられる。来客、石山吉子、大炊農子。泰、大東え行。

十一月十八日 壬辰 土曜 曇。 浅草婦人法話会大会、午前より。  
朝、散歩して帰。午前十時より浅草本願寺ニ参集す。開会より廿五年大会、会長岩倉梭子式辞、予、代読す。説教二座、貞水はなしにて点灯、跡狂言等ありたれと、先帰。

\*跡(後)

十一月十九日 癸巳 日曜 雨。寒し。代々木久米、午前九時より。朝八時より、予、李子と同しく久米氏へ行。万千代結婚披露式能。能ハ、羽衣 古市代、融 久米氏、外囃子沢山。婦人方の大小太鼓、みな上手也。予、仕舞高砂。梅若連仕舞等に て千秋楽。

十一月二十日 甲午 月曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。代々木久米氏え使及手紙出す。

十一月二十一日 乙未 火曜 雨。

朝、三殿下成らせられる。本日より、愈、手塚義三郎、学校ニ来る事に相成たり。

十一月二十二日 丙申 水曜 晴。

朝、墓参して帰。課業例の如し。来客、久米氏、万千代と御礼に來られる。婦人画報社鷹見氏、婦人世界富岡氏、来栖信一。横浜左右田琴子の葬式ニ付、木村代参す。

十一月二十三日 丁酉 木曜 新嘗祭。晴。岡田和一郎氏娘和子、養子横田清三郎氏、

結婚披露会、上野精養軒、午下一時。

朝、巢鴨終点迄往而帰。揮毫ものす。来客、酒井貴美子さま。

受信 宮本小一氏より書至。

十一月二十四日 戊戌 金曜 晴雨不定。67(度)。

校外生稽古日。午下、三殿下成らせられる。

発信 大宮智恵尼え手本出す。

十一月二十五日 己亥 土曜 晴。午下三時より巢鴨宮本氏行。

朝より揮毫ものす。午下三時より、棚橋作子死去ニ付、悔ニ行。実に惜みてもなほあまりあり。それより宮本氏へ行。庭園の楓葉、見頃と云。親戚なる田中氏親子、晴子も参られ、大竹も素謡菊慈童。予ハ紅葉狩を謡ふ。仕舞もありて、晚餐佳肴、面白く遊ひたり。八時帰。

棚橋作子え香料三円。

十一月二十六日 庚子 日曜 晴。

朝七時より車にて新橋ニ行。閑院宮両殿下、赤十字大会、愛国婦人大会ニ、高知県え成らせられるに付、奉送申上て帰。小村寿太郎侯薨去、本日午前十時三十分也。実に国家の惜むべき也。揮毫ものす。北清え愈出兵。七百余名の増派、三師団、名古屋や出発也。

\*成らせられるに(ママ) \*名古屋(名古屋)

十一月二十七日 辛丑 月曜 晴。

朝、散歩して津田氏を問て帰。課業例の如し。

発信 愛国婦人社徳富氏え画遣す。

十一月二十八日 壬寅 火曜

朝、散歩して基威氏を問て帰。来客、支那留学生、李奎如、李毅如、李卓群、其外今一人参観。叮嚀にすへてを見て帰。朝、三殿下成らせられる。

発信 岡村艶子え手本出す。

\*李奎如(李鶴如)

十一月二十九日 癸卯 水曜 晴。 愛国婦人会より癩兵院行、午下一時より。

朝、散歩して帰。課業例の如し。午下一時より、宮本氏え一寸よりて、直ニ癩兵院二行。会長、副会長はしめ、御集りにて、癩兵慰める為、会より浪花節二段、雲月とか、十二、三の子供ながら実に真ニ入て面白く、桃川若燕の講談アリて、四時過帰。橋岡来る。朝四時起、重威、五時出立して、霊岸島。

十一月三十日 甲辰 木曜 晴。空、寒月清し。 午下四時より星ヶ岡行。

朝、散歩して帰。課業例の如し。午下四時より桃子と同道にて星の岡茶寮に行。伊藤夫妻帰朝の祝宴にて、来客、万里小路伯、加太氏、守屋此介、加茂氏の兄弟共、廿五、六人にて、談話面白く、謡も蓄音器もありて、九時散会す。

(十二月)

十二月一日 乙巳 金曜 晴。

朝五時、重威、帰房す。校外生五人、午下、三殿下成らせられる。本日ハ、石山基威、嫁取日にて、正午より、正子、日比谷太神宮え行。結婚式也。

受信 神代鶴子より書至。

十二月二日 丙午 土曜 晴。 代々木石山氏行。

朝十時より、予、正子と同しく代々木大炊氏を問ふ。主人御番にて不在。はや子さまのみ久々にて何くれとかたりあひ、午餐後、二時頃、大炊夫妻、石山吉子、芝より帰られて、又、大炊師前さまえ行、八時帰。

\*かたり(語り)

十二月三日 丁未 日曜 晴。 宮本氏行。

朝九時より、予、正子、寿子と觀世に能をみる。面白し。片山、鉢木、中途にて帰。宮本氏之行。令孫除隊之祝宴開かれ、親戚縁者廿五、六人之客にて賑々し。余興、琵琶、安部竜雲、川中島、北白川宮、彰義隊あり。かねて約したる鉢木謡ふ、予、田中父子、大竹氏。食事済て九時帰。李子、ワイ会、偕行社にて催しあり。余ハ不参。

\*ワイ会 (和慰会)

十二月四日 戊申 月曜 晴。十五夜、月清し。

課業例の如し。揮毫ものす。泰、千葉より帰。兔三頭、嶋五羽得て帰。  
発信 遠田静子え。大宮智栄え。依田直子え。

十二月五日 己酉 火曜 晴。月如鏡。 堀田伯、午下三時より。

朝、三殿下成らせられる。御稽古申上る。本日より御試筆。午下三時より、予、李子と同しく堀田家に行。御結婚祝宴を開かれ、極近親の方のみにて、鍋島御里家御主人、御母、妹子、万里伯、松平直敬御母子、予、梅子、酒井忠克御夫婦、松平靱子、万里智子、堀田茂子と也。余興、藤間連の子供踊五番あり。宴席も盛也。折ふし鶴の声しきりなりけれハ、枝かはす二木の松のまつ陰に千代よふ鶴の声しきりなり

御ひらき十二時也。予ハ十一時帰。

\*梅子 (桃子)

十二月六日 庚戌 水曜 晴。月如昼。

朝、散歩して帰。課業例の如し。来客、石山基陽、橋岡。

十二月七日 辛亥 木曜 晴。月あかし。

散歩して帰。課業例の如し。夕景より万里伯御出にて、晚餐を供にす。

\*供にす (共にす)

十二月八日 壬子 金曜 陰。

校外四人。午下、三殿下成らせられる。来客、堀田伯使千葉光弥、石山基陽。

発信 房州重たけえ。秋田岡村え。

\*重たけ (重威)

十二月九日 癸丑 土曜 晴。

朝より揮毫ものす。来客、原氏使、石山吉子。

十二月十日 甲寅 日曜 晴。

終日、揮毫ものす。

十二月十一日 乙卯 月曜 晴。  
課業例の如し。終日、揮毫ものす。

十二月十二日 丙辰 火曜 晴。45(度)。  
朝、三殿下成らせられ、御稽古申上る。午下、秋元子え行、御夫婦ニ対顔、久々に席画す。八重子様と合作す。四時頃、御暇を告て田村氏え行。利七氏病氣、重患のよし。今日は一度御逢下されたしとて、枕頭ニに(衍)て有かたき咄しをする。涙をこぼして悦はれたり。直二帰。  
発信 大宮智栄え。岡村つやえ。棚橋一郎、山口勇雄、保坂勝治え。

十二月十三日 丁巳 水曜 晴。  
課業例の如し。本日、夕六時過、田村氏より電話にて、病人利七義、只今落命致し候由承りて、大く驚々入、直二李子さし使し候。  
\*利七義(利七儀) \*さし使し(さし遣し)

十二月十四日 戊午 木曜 晴。  
課業例の如し。午下早々、田村氏え悔二行。長子申され候には、一昨日御出の時、御念仏の尊き事御聞せ下され候て、臨終迄念仏三昧にて、結構ニ往生いたし候、御師匠さま御知識なりとて、悦はれ候。然し今年中ハ大丈夫と思ひしに、御早き事にて実に残念々々、何共申様なし。已而帰。

十二月十五日 己未 金曜 晴。  
校外稽古日ながら、朝より腹痛にて平臥。医師を呼て手当する。吐瀉す。終日養生怠りなし。

十二月十六日 庚申 土曜 晴。  
朝より昼迄ハ授業もありて、本日、泉会。忘年会も。式場は塾食堂にて差支なし。槳飾も出来たり。一時より始む。続々来会者もあり。天気、殊ニ晴朗。めつらしき方々も御出にて、三百余の人員にて賑々し。余興七番。甘酒、御しる子、御せん、菓子、みかん、折詰弁当に、あたゝかき御膳、青しそかける。夜八時過、全畢。  
\*槳飾(裝飾) \*御せん(御煎) \*青しそ(青紫蘇)

十二月十七日 辛酉 日曜 晴。午前十一時、谷中初音町全生菴え。  
朝十時半より谷中全生菴ニ参詣す。棚橋作子五七日くり上、法事営まれ、読経二逢て、直

二田村氏葬送二見送る。盛なる葬義なり。跡にて靈前に参拝して帰。  
\*くり上(繰り上) \*葬義(葬儀)

十二月十八日 壬戌 月曜 晴。  
課業例の如し。来客、婦人画報記者徳永はつ子。

十二月十九日 癸亥 火曜 雨。

朝より三殿下成らせられる。午下、揮毫ものす。夜、新年はかき揮毫す。

\*はかき(端書)

十二月二十日 甲子 水曜 晴。 55(度)。

課業例の如し。午下三時過より閑院宮様え詣し、本日ハ、三条治子さま、大谷光瑩様御招きニ付、予も召され候。四時過、成らせられる。種々御親しく御咄し共にて、御食事ハ日本食、川八の御料理にて結構々々。七時過、御両君、御帰りにて、予も御暇申上る。本日は殊の外あたゝかき日にて寒さしらす。

十二月二十一日 乙丑 木曜 晴。

課業例の如し。正子、操つれて親類廻りする。夕方帰。

発信 水島鉄也氏え続地出す。寺田氏え文、及こも包出す。

\*こも包(蔵包)

十二月二十二日 丙寅 金曜 晴。

校外生五人、稽古する。内堀熊雄、雇入る。

十二月二十三日 丁卯 土曜 晴。

朝より昼迄授業、済て一同遊戯する。畢而送別辞有て、皆、帰宅す。続、塾生も帰省す。

十二月二十四日 戊辰 日曜 晴。

跡見法専より齎着。

十二月二十五日 己巳 月曜 陰。

台湾加田菊子より野菜物着。

発信 美尾野え悔、及香料金三円出す。茂木蝶子え画出す。

十二月二十六日 庚午 火曜 晴。

午下より田村氏え喪中見舞二行。二七日にて、報恩寺院主読経ニ逢て帰。帰途、原町酒井

様え歳暮申上て帰。津田氏、本郷東片町え移転す。

十二月二十七日 辛未 水曜 晴。

午前より、予、李子と同しく三越え買物に行。午後四時帰。

十二月二十八日 壬申 木曜 陰。夜、月清し。

朝より揮毫ものす。午下一時より、予、李子と同道して靈南坂志賀氏え行。鉄千代の催にて素謡あり。隣家森村母娘と、松崎細君、丹羽花子、俊子。小督、鉢木の二番あり。本日、橋岡病氣にて不参。下田氏来る。夕餐後、仕舞もありて面白く、真の忘年会也。十時帰。午下四時頃、始て雪ちらつく。已而止。

十二月二十九日 癸酉 金曜 晴。

朝より、絹本一枚、揮毫す。本年、端書式百枚、新年分出す。受信 保阪伴治より鯛の孕すし着。

十二月三十日 甲戌 土曜 晴。朝、水道口氷て水出ず。月如鏡。

押入のかた付ものす。来客、岩浪稻子。夜、買物に行。市中賑はし。毎日新聞記者二逢ふ。受信 美尾のより蕪漬着。

\*美尾の (美尾野)

十二月三十一日 乙亥 日曜 晴。氷厚し。夜、月鏡の如し。

朝より依頼のたにさく揮毫す。床飾、或ハ仕舞事も出来、家内一同、一人もつゝかなくて、よき年の暮とそ祝ひをさむ。墓参して帰。電車車掌等の同名非行往来人の迷惑一方ならずと云。御題生徒の歌、宮城え詠進す。

発信 保坂氏え短冊出す。大宮智栄、外えも出す。

\*たにさく (短冊) \*つゝかなくて (恙無くて) \*同名非行 (同盟罷業)

(明治四十四年会計)

一月より反物到来

廿一日 \ 紅絹一反

坊城鉄子より

廿五日 白羽二重一反

美の部姑子 \*美の部 (美濃部)

白ふらねる一反

来栖貞子 \*ふらねる (フラネル)

三月十五日 白羽二重一反

幸島菊子 \*十五日 (十四日)

贈りもの 四十四年一月より	六月 五日	同 十四日	同 十四日
新御召一反	七月 七日	三月十五日	三月十五日
花色絹一反	十五日	廿八日	廿八日
二月より	薩摩緋一反	紋羽二重一反	紋羽二重一反
白紋羽二重一	白縞伊せ(勢) 崎有地氏え 一反	白紬一疋	白紬一疋
	白地ゆかた五反	紋羽二重一反	紋羽二重一反
		御召一反	御召一反
		白縮緬一反	白縮緬一反
		白絹一反	白絹一反
		絹もすりん一反	絹もすりん一反
		壁紹一反	壁紹一反
		御召一反	御召一反
		白七子一反	白七子一反
		一楽織一反	一楽織一反
		夏帯地 自用 一筋	夏帯地 自用 一筋
		縞モスリン一反	縞モスリン一反
		縞モスリン一反	縞モスリン一反
		友仙モスリン一反	友仙モスリン一反
		帯皮三筋	帯皮三筋
		モスリン小紋 自分用 一反	モスリン小紋 自分用 一反
		厚徳会より	厚徳会より
		買もの	買もの
		千田勇子 *伊せ崎(伊勢崎)	千田勇子 *伊せ崎(伊勢崎)
		厚徳会より	厚徳会より
		跡見春江え	跡見春江え
		石山吉子え	石山吉子え
		丹下花子	丹下花子
		北里虎子	北里虎子
		高梨静江	高梨静江
		増田艶子、長松菅子	増田艶子、長松菅子
		今津覚太郎	今津覚太郎
		茂木栄子	茂木栄子
		買もの、寿子え	買もの、寿子え
		同 *友仙(友禅)	同 *友仙(友禅)
		同	同
		飯島富美子	飯島富美子
		加藤浪子	加藤浪子
		山口敦子	山口敦子
		美野部姑子 *美野部(美濃部)	美野部姑子 *美野部(美濃部)
		瀬川美登	瀬川美登
		由比のふ子 *もすりん(モスリン)	由比のふ子 *もすりん(モスリン)
		掛川神津 田鶴子	掛川神津 田鶴子
		阿部米子	阿部米子
		千田勇子 *十四日(十三日)	千田勇子 *十四日(十三日)

御召一	下女まちえ	
紋羽二重	田中久子え	
三月十五日	黄八丈一反	幸村氏
十八日	羽二重一反	田村謹寿え
廿日	秋田織一反	御法主え
四月		
十四日	独(蜀江)一 紅錦一卷	田中勝子え *独紅錦(蜀江錦)
四月廿九日	白紋羽(二) 重一	長尾 *長尾(鳥尾)
	縞もの一	石山伴子え
	白新毛織	有地男え
金錢出納録		
(二月)		
出		
二日	車夫二人、祝義	二円
同日	車夫二人、弁当	七十銭
三日	車ケコミ皮	三円 廿五銭
同日	使電車	十銭
四日	車夫え、弁当	一円
五日	絹や、めりんす	十円 廿銭
八日	(記述ナシ)	五十銭
十一日	愛国婦人会費	一円
同日	あとをしえ	五銭 *あとをし(後押)
十三日	車夫え、弁当	五十銭
十四日	清水初え、見舞	廿円
十五日	堀田伯え、柳	五円
同日	正子、汽車代	二円
十八日	長松え、香料	三円
廿二日	清水え、香料	二円 *二円(二円(ママ))
廿四日	眼鏡袋二箇	一円
同日	筆七本	一円 廿六銭
同日	土瓶一	四十五銭
廿六日	浜野え、祝義	一円 *祝義(祝儀)

跡見花蹊日記 明治44年

十七(日)	十六(日)	同	十五(日)	十一(日)	九日	六日	同日	五日	二日	出	二月より	(二月)	廿八(日)	廿七(日)	同日	廿五(日)	廿二(日)	十三(日)	同日	十一(日)	同日	九日	同日	九日	一日	入	廿九(日)	廿八(日)	同日
故三条公玉串	浦氏一周忌志	木田氏え、香料	婦女新聞二、三分	靖子、小田原旅行費	御召下着付、三越	小包代	御召下着付、松や	電車代	観世席料六月迄	され地	観世席料六月迄	志賀きよ子	角田、月謝	美濃部、潤筆	會計より	洪木直一	横川きく	西村謙吉	井上竜太郎	別府兩人	松岡しつ	正司もと	湯本まつ	伊東兩人	(記述ナシ)	橋岡え	弘え	伊藤冬子	大口先生え
二円五十銭	二円五十銭	五円	三円	廿六円八十銭	六円	廿四円六十銭	十八銭	十銭	十五円	四円八十銭	十五円	二円	一円	五十円	五十円	二円	一円	五円	十円	五円	二円	一円	二円	三円	五十銭	五円	三円	一円	三円
二円五十銭	二円五十銭	五円	三円	廿六円八十銭	六円	廿四円六十銭	十八銭	十銭	十五円	四円八十銭	十五円	二円	一円	五十円	五十円	二円	一円	五円	十円	五円	二円	一円	二円	三円	五十銭	五円	三円	一円	三円
*十七(十																													



入	
同日	印紙代 一円
十八日	乾氏、玉串代 一円
廿五日	福田会、慈善券二枚 二円六十銭
三十一日	弘え、旅費 十五円
	御手本六十冊 廿四円
三十一日	伊せ忠、料理代御すもし、さしみ、御茶碗、三人分 十五円
	観世清久え 五円
	賄料 十五円
一日	婦女界より 七円
二日	坂井寛三郎 廿円
三日	竹内専之介 五円
	角田栄子 一円
	佐野秀子 一円
	河村晴子 一円五十銭
五日	長岡愛子 二円廿銭
十三日	千田勇子 十円
十八日	會計より 五十円
廿四日	長谷川知可 一円
	山尾末子 六円
	山内八重子 五円
廿八日	田中勝子 廿円
(四月)	
四月一日より出之分	
二日	向島入金行 二円
	汽船電車代 五十銭
	松の盆栽 一円廿銭
	春蘭盆栽 一円
	鳥尾子行 (記述ナシ)
	工藤氏え 五円
	種々買もの 九円三十銭
	長水引 一円四十六銭
	電車代 十八銭

入之分  
 四月十日 武村ほの子 五円  
 平野広恭 七円  
 鶴岡英文 三十円  
 河村晴子 一円五十銭  
 佐野ひて 一円  
 角田栄子 一円  
 早川八寿 五円  
 藤堂芳 七円  
 酒井清 三十円  
 小松宮 三円七十五銭  
 小早川式子 三円  
 志賀きよ 四円  
 長谷川千賀 一円  
 会計より 五十円  
 閑宮様より 十円

同  
 十一(日) あんま 廿銭 \*あんま(按摩)  
 三十(日) 帯代 十円  
 伊せ忠 二円廿五銭  
 貯料 十五円

橋岡、二、三、二ヶ月 拾円

入之分  
 四月十日 武村ほの子 五円  
 平野広恭 七円  
 鶴岡英文 三十円  
 河村晴子 一円五十銭  
 佐野ひて 一円  
 角田栄子 一円  
 早川八寿 五円  
 藤堂芳 七円  
 酒井清 三十円  
 小松宮 三円七十五銭  
 小早川式子 三円  
 志賀きよ 四円  
 長谷川千賀 一円  
 会計より 五十円  
 閑宮様より 十円

(五月)  
 五月一日より出之分

帝国劇切符 二円四十銭  
 車代 四十二銭  
 電車代 三十銭  
 戊申倶楽部 廿銭  
 育児院費 十銭  
 美術協会 五十銭  
 能楽新報 五十銭  
 代々木入費 五十銭  
 絹や払 一円四十五銭  
 まちえ 一円



(五月一日より)入之分

江戸茂一郎	五円
角田栄	一円
佐野秀	一円
大村梅	三円
しのふ会	三十円
石川半右衛門	十円
白木や、切手	十円
白木や(白木屋)	
會計より	五十円
小早川	三円
河村晴	一円五十銭
長谷川千賀	一円
遠田静子	二円
小早川、手本二	二円
新名もと	五円

(六月)

六月一日より出之分

鳥尾子え	五円
五月分雜費	五円五十一銭
正子え預ル	十円
銀行え預金	八十円
紺かすり一反	一円廿銭
桃子え	廿円
片皮帯三筋	二円拾銭
縞モスリン	二円廿八銭
縞モスリン	二円五十銭
縮緬裾よけ	二円五十銭
友仙(禪)モスリン	二円七十銭
ゆかた二反	三円四十三銭
橋岡え、六月分	五円
写真四ツ切一	六円
写真後写一	一円九十五銭
普門払	五円
給金	三円

同 同  
 食費 十五円  
 洗濯代 七十五銭  
 下総や、車拵代 三十円

入之分

二日 河村晴子 二円五十銭  
 十一(日) 北白川宮 二円五十銭  
 十二(日) 若山春子 十円  
 十六(日) 角田栄子 一円  
 十七(日) 渡辺玉子 十円  
 廿三(日) 遠田静 一円  
 同 依田直子 一円  
 同 御(日) 根野、手本 一円  
 同 会計より 五十円  
 同 宮様より 十円  
 廿七(日) 中田富子 十円  
 廿七(日) 中田潤筆 四十円  
 廿八(日) 九条家 二円五十銭  
 同 藤堂、手本 一円  
 三十(日) 閑院宮様 三十円  
 閑院宮様より 十円

(七月)

出金

二日 井深え、礼金 三円  
 観世え、中元 二円五十銭  
 同かしらえ 一円

七月一日入金

一日 宮城女官より 十五円

(挿入紙)

(表) 横浜火災保険会社東京支店長 遠藤元三  
 (裏) 此人ハ、小山良吉氏ノ知人ナル人ニ御座候間、原様え宜敷願上候。